

きる日系美術家たち

日本ブラジル修好100周年記念

ブラジル現代日系作家展

VIVEM NA MAJESTOSA TERRA BRASILEIRA



きる日系美術家たち

日本ブラジル修好100周年記念

ブラジル現代日系作家展

VIVEM NA MAJESTOSA TERRA BRASILEIRA

(絵画展 カタログ)

日本ブラジル修好 100 周年記念

ブラジル現代日系作家展

—ブラジルの大地に生きる日系美術家たち—

EXPOSICAO DOS PINTORES
NIPPO-BRASILEIROS CONTEMPORANEOS

目次

ごあいさつ…………マルコ マシエル	
ごあいさつ…………渡辺美智雄	
ごあいさつ…………パウロ ピーレス ド リオ	
ごあいさつ…………斎 藤 裕	
ブラジル現代日系作家展によせて…………橘 富士雄	
ごあいさつ…………山 内 淳	
ブラジルの日系作家について…………針 生 一 郎	
ブラジル日系美術のあゆみ…………宮 尾 進	

図版／作家略歴

日伯姉妹都市一覧

謝辞…………豊田 豊／石田 浄

凡例

* 作品名およびそのデータについては、原則として作家本人により提供された資料に基づいた。寸法はタテ×ヨコcmで表記した。

* 作家略歴については、作家本人により提供された資料に基づいているが、紙面の都合上で事務局により編集割愛された部分がある。

* 図版は、戦前移民者—戦後移民者—ブラジル生まれの日系二世・三世—日系以外の近年の「サロン文協

展」受賞者にグループ分けし、それぞれ五十音順に掲載した。

* 鈴木章子氏の作品については、徳島、東京会場のみのお出品とする。

(004. ~ 006. 左半分ポ語)

ごあいさつ

ブラジル連邦共和国副大統領

マルコ マシエル

(略)

ごあいさつ

衆議院議員

日伯国会議員連盟会長

日本ブラジル修好100周年記念事業組織委員会名誉委員長

渡辺美智雄

(略)

ごあいさつ

駐日ブラジル大使

パウロ ピーレス ド リオ

(略)

(007.009 挨拶 ポ語のみ)

ごあいさつ

日本ブラジル修好100周年記念事業組織委員会委員長

新日本製鐵株式会社代表取締役会長

齋藤 裕

(略)

ブラジル現代日系作家展によせて

日本ブラジル修好100周年記念事業

サンパウロ日系協力委員会

委員長 橘 富士雄

日本ブラジル修好100周年を記念して、本展が日本各地で開催されることになりました。同じ絵画展として、日本側同記念事業の一環であるサンパウロ美術館所蔵名画による巡回展がありますが、当絵画展はブラジル日系人美術作家の作品を主とし、それに純ブラジル人の作品も若干加えてあります。

本カタログのブラジル日系美術の歩みを記したものの中にありますように、この87年のブラジル日系人の歴史の中で、日系の美術作家は、現在のブラジル画壇において非常に大きな地位を占めるに至っております。

ほとんどが農業従事者であった私たちブラジル日本移民の中から、こうした美術に携わるものが多数生まれ、しかもそれぞれが高く評価されるまでに成長しました。何故こうしたことがおこったのかは、ようやくそれを解明しようとする研究者も現れて来ております。

私たちはいまここに、これら日系の代表美術作家の作品をありのままに展示し、皆様に観ていただくことに致しました。

ここに展示された作品を通じ、同じ日本人の血を引く日系人美術作家たちが、南半球のブラジルの地で大きく花開くに至ったそのゆえんも併せて考えていただければ幸いです。

忘れてはならないのは日系人作家に対する一般ブラジル人の寛容さと理解、そしてブラジル人作家たちの惜しみない激励です。日伯修好の絆は案外こんなところで固くむすばれていたことをお分かり頂き度いと存じます。

日本人がこの国に移住してきて先ず農業を基盤として、しだいに商業、工業を含めた凡ゆる分野で頭角を現して参りますが、その中で日系人美術家たちの活動もまた日伯両国文化交流面で際立った一環をなし、これを日本の国際化の先駆的な所産として据えて頂ければこの100周年記念絵画展は一層意義あるものになると考えております。

(たちばな ふじお)

(011. ポ語表示)

ごあいさつ

ブラジル日本文化協会

会長 山内 淳

本年は、日伯修好通商条約締結100周年の記念すべき年にあたります。この記念事業の一つとし、日伯両国の文化交流とブラジル日系社会の一端なりとも、皆様に御理解を賜わりたく、「ブラジル現代日系作家展」を企画致した次第であります。

この100年という歳月の経過は、ブラジル日系社会にとって第二次世界大戦を挟んで、幾多の紆余曲折の歴史でありました。初期開拓移民の人々が体験した過酷な労苦・艱難（ kannan ）は、筆舌に尽くし難いものと語り継がれております。そうした中に於いても、日本移民は画筆を捨てず日系画家は孜々（しし）として育ち、ブラジル美術界に「サンパウロ美術研究会」（略称：聖美会）の名のもとに結集して、確固たる地位を占めるに至りました。

そうした先駆者たちの遺産の上に、戦後渡伯の移民美術家たちは創意努力を重ねまして、現在の日系作家特有の優れた作風を形成されました。それは、東洋の精神文化を基調とする美意識と、ラテン世界の自然・文化環境からの視点が一体となった、表現の美の世界といえます。多くの日系美術作家の芸術的資質の高さは、世界的に知られる「サンパウロ国際ビエンナーレ展」に於いても大きく評価され、ブラジル国内のみならず、国際的にも第一級画家として認められるに至っております。そして、日系社会を越えて、ブラジル美術界を代表する地位を占めつつあります。

それ故に、この「ブラジル現代日系作家展」は、その作品を通して、日伯両国の文化交流とブラジル日系社会への、皆様の御理解を聊（いささ）かなりとも深めて戴くことを念願して、開催地の皆様の御協力によって催させて戴きました。

御支援を戴いた開催地御関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

（やまうち あつし）

（013.014. ポ語）

ブラジルの日系作家について

美術評論家

針生一郎

（略）

(017. ~ 019. ポ語)

ブラジル日系美術のあゆみ

ブラジル日本文化協会美術委員会

宮尾 進

日系美術の夜明け

本年は日本とブラジルが修好条約を結んでから100周年目にあたる。しかし、この両国の深い友好の担い手となったブラジルへの日本人移住が始まったのは、それから13年後の1908年（明治41年）のことであった。以来、太平洋戦争の開始となる1941年（昭和16年）までに19万人、戦争をはさんでの10年余りの空白期間において、戦後移住が再開された1953年（昭和28年）からは、現在までに約6万人、合計25万人程の移住者が、日本からは最も遠いブラジルの地に渡って来た。

この25万人の移住者の子孫は現在五世代を数えるまでに繁栄し、その総数は130万人となり、海外日系人の最大集団を形成するに至っている。

戦前の移住者の殆どは、当時最も隆盛を誇ったブラジル・コーヒーの広大な農園への契約労働者としてであり、ひと稼ぎして故郷に錦を飾って帰ろうと志す者たちであった。しかし、農園労働は苛酷な上に、夢見た程の賃金は得られないものだった。“夕ざれや樹かげに泣いて珈琲（コーヒー）もぐ”（瓢骨）と、一移民が詠んだそのままの生活だった。労働契約期間を終えた移民たちは、僅かに残った金を頭金に、未開の奥地の原始林を買い、仲間同士が集まって斧一丁で大木を倒し、鋤一丁で耕し、コーヒーを植え、綿を栽培し、土曜も日曜もなく働き、少しでも多くもうけて故郷に帰る日を夢見た。

当時“子供移民”として幼い時親に連れられ海を渡って来、鋤を引きながら親の手伝いをしている青年たちも数多くあった。単調な労働に明け暮れる農園の生活にはあきたらない思いの青年たちの中には、都

会に出て何か新しい生活をしたいと志すものたちのあったのは、当然のことだろう。それらの青年たちの中には、サンパウロの都市に出て来て、絵画を志す者もあった。

1931年（昭和6年）、サンパウロ市で、「日本倶楽部」主催の日本移民社会の初の公募展が開催され、意外な反響があり、そこから画家志望の青年たちの結束が始まった。ブラジル日系美術史の出発点とも言えよう。以後、1933年から始まったサンパウロ州の官展「サロン・パウリスタ・デ・ベラス・アルテス」（パウリスタ美術展）への参加者も出て来た。

そうした盛り上がりもあり、1935年（昭和10年）、「サンパウロ美術研究会」（略称：聖美会）なるものが創設された。日系美術史上、画期的な出来ごとであった。日系美術界現存の最長老半田知雄をはじめ、高岡由也（故）、玉木勇治（故）、田中重人（故）、高橋吉左衛門（故）、富岡清治（故）、桧垣肇などの画家を志すもの及び美術に関心を寄せるものたち十数人が創立に参加した。会員相互の親睦、作品の鑑賞・批判、年少者の指導、会員の展覧会開催などが目的とされた。

以来、活動は活発となり、会主催の個展が開催されたり、時局がら祖国日本への国防献金展といったものなども開かれたが、1939年（昭和14年）には、リオの国展に出品した高岡の自画像が日本人として初めて銀賞を受け、話題となったりした。

しかし、この会の活動はわずか5年にして中断を余儀なくされた。太平洋戦争の勃発によって敵性国民となった日本人画家は、野外での写生もままならなくなったからである。

聖美会の再開とブラジル近代美術の開花

1945年（昭和20年）8月、日本敗戦の報は移民社会に大きなショックと、それに続くカチ組・マケ組に分かれての同胞相食む異状な混乱を呼び起こした。混乱は長く尾を引いたが、1947年、高岡らの奔走によって聖美会は再開される。会員には旧メンバー画家のほか、安芸正人（故）、沖中正男、山本岩吉（彫刻）らに二世層のジョルジ森、フラビオ田中らも参加するようになった。そして、フラビオ、ジョルジ共にブラジル画壇において注目されるまでになり、二人ともフランスに渡り、さらに画風をみがくことになった。会

員の個展も活発に開かれるようになったばかりでなく、この頃半田・高岡・玉木・鈴木威らが中心になり、“グループ・キンゼ”（15人グループ）が結成される。このグループの三分の一は若いブラジル人画家であり、非日系美術家との交流も生まれて来た。

1950年代に入ると、ブラジル美術界の動きもようやく活発になり、51年にはリオ・デ・ジャネイロに「サロン・ナショナル・デ・アルテ・モデルナ」が設立され、サンパウロでは「サロン・パウリスタ・デ・アルテ・モデルナ」が創設されると同時に、同年第1回「サンパウロ・ビエナール」が開催された。特に「サンパウロ・ビエナール」は美術の総合的国際展で、内外の前衛的な現代美術に大きな刺激を与えることになった。日本は第3回から正式に参加し、棟方志功が版画部門で大賞を受賞、翌第4回展においては、エッチングの浜口陽三が続いて版画大賞を獲得している。

こうしたブラジル美術界の活気は日系画家にも大きな刺激となり、聖美会の動きも活発化し、1952年（昭和27年）の第1回「コロニア展」以来毎年同展が開催され、その受賞者の中から新たに間部学や福島近（第8回「サンパウロ・ビエナール」においてイタマラチー買上賞も受賞）、女流の大竹トミエ（同じくビエナールでイタマラチー買上賞その他受賞多数）など、現在のブラジル画壇で最も活躍している作家が次々と生まれて来た。特に1953年、聖美会の「コロニア賞」を受賞してからの間部は56年、「サロン・パウリスタ・デ・アルテ・モデルナ」展で小金、翌57年には大金賞を受賞、さらに58年には同展で州知事賞を、続いて59年には新たに創設された、ブラジル美術界の年間総合最優秀賞である第1回「レイネル賞」を、また同年開催の第5回「サンパウロ・ビエナール」展においては国内大賞を受賞。これが時の仏文化相アンドレ・マルローに注目され、第1回パリ「青年ビエナール」にブラジル代表として参加、同展での最高賞「ブラウン賞」を獲得するという連続受賞を果たし、同年タイム誌も「マベ黄金の年」の一頁記事を紹介する程であった。

ブラジル画壇の主流から離れた存在であった聖美会のメンバーたちにも、ようやく陽がさして来たのである。その昔、高岡・玉木の二人はリオで師について学ぶため、旅費もなく、サンパウロからリオまでの

400キロの道程を、トランクを下げて歩いて行くと伝えられるが、サンパウロの田舎のコーヒー園で鋤を引きながら自己流で絵を描き、時たまサンパウロに出た折、聖美会の先輩の半田や高岡に絵を見てもらっていた間部も、輝かしいいくつもの受賞につながるまでは、絵が売れるプロとしての生活は出来ず、自作のネクタイを売り歩くなどの不遇な時代があった。農業移民であったこれらの日系画家が、プロとして目途がたつことも覚束ない状況の中で、生活に追われながら絵筆を捨てようとしなかった。その情熱は何であったのか。

新しい波

戦後ブラジルへの日本移民が再開されたのは1953年（昭和28年）からのことであるが、50年代の後半から60年代前半にかけて、日本で美術の世界に身を置いていた若い芸術家たちが、数多い移住者たちに混じって次々にやって来た。広い自由なブラジルの新天地に活動の場を求めて来たものたちであったが、時あたかもその新天地には幸いにして、長い艱難辛苦（かんなんしんく）の後に、聖美会の先輩画家たちがようやくブラジル画壇の中に、確かな地歩を固めようとしていた時であったし、ブラジル美術界自体もまた、近代美術の大きな開花期で、芸術家たちは創作活動に大いなる意欲を燃やしている時期でもあった。そうした先輩画家たちの築いた地歩と、新興の美術運動の雰囲気の中にやって来た新来の芸術家たちは、農業移住者から出発した先輩たちのような苦難もなく、比較的容易に思いのままの創造の世界で活動し、プロとしての道を切り開くことも可能であった。

この当時移住し、ブラジル国内あるいは海外の各種の美術賞も獲得し、現在ブラジル画壇の中堅として広く活動する作家には、豊田豊（彫刻）、若林和夫、近藤敏、越石幸子、楠野友繁・隆夫兄弟、鈴木幸雄、土本真澄（彫刻）、金子謙一、廣田建一、榊原久夫、白井久雄、木暮光孝などがいるほか、プロ作家として活躍するものは多数に及ぶ。前途を期待されつつ惜しまれて世を去った小原久雄（彫刻）、野村哲夫もこの仲間であったし、安井賞を受賞した後物放した鴨井玲もかつてはその一人であった。

二世層の抬頭

1972年（昭和47年）聖美会は発展的に解消し、サンパウロのブラジル日本文化協会の主催する「サロン文協」として再発足する。以来、毎年開催される「サロン文協」展は若い日系世代の美術界への登龍門となったばかりでなく、すでに23回を数えるに至ったこの美術展は、近年日系のワクを越えて、応募者・受賞者も非日系人が過半数を数え、名実ともにブラジル画壇への登龍門として広く知れわたっている。

こうしたブラジル美術界における数多い戦後移住芸術家の抬頭、あるいは親である一世世代美術家の活動に刺激を受け、「サロン文協」展を通り、あるいは美術学校を出、画壇への進出を目指す若い日系二世層の活動が、1960年代後半から70年初頭にかけて目立って来るようになる。タカシ・フクシマ、マスオ・ナカクボ、リージャ・オクムラ、ユーゴ・マベ、タロウ・カネコらがその時代の代表であるが、彼らに続いて現在ではさらに若い世代のジェームス・クドウ、ミルトン・ソガベ、ロベルト・オキナカ、アデマール・シマブクロ、マリオ・イシカワ、サチオ・オオイワといった者たちが登場して来ている。

期待される日系美術芸術家たち

ブラジル日系社会は本年で87年の歴史を数えることになる。

戦前の移住者、戦後の移住者ともにその多くは農業移住者として、ブラジルへ渡って来た。今日なお農業者としてとどまる日系人は、130万人の中の僅かに一割程に減少しているが、それでもなお、日系人のブラジル農業界に果たして来た貢献は高く評価されている。野菜・果物などの種類を豊富にし、ブラジル人の食生活を豊かにさせたばかりでなく、すぐれた技術で生産を高め、それを普及させて来たためである。“日本人は農業の神様”という称賛はいまでも変わらない。

そして、これに次ぐブラジル社会の中での日系人に対する高い評価は、今日、日系美術・芸術家に与えられている。

現在のブラジル美術界は日系人を除外しては語ることは出来ない程に日系美術家は、大きな場を占めるまでになっている。移民世代が日本から持って来た、日本文化の美意識に根ざす色彩・表現形式は、異質のブラジルの文化・風土の中で花開き、かつてなかった新鮮なものをブラジル美術界にもたらしたためのものと言えよう。幸いにしてこうした日本的美意識は、日本文化の希薄化が憂慮されている後続日系世代にも、不思議と色濃く残されており、若い日系美術家たちは、生来のブラジルの自然・文化の影響の中に渾然（こんぜん）と生かして、日系特有の美の世界を創造している。

ブラジル美術・芸術の世界での日系人作家の活躍は、今後も断絶することなく、いよいよ盛んになるであろうことが、期待されているのである。

（みやお すすむ）

大竹富江
TOMIE OHTAKE

1913年 京都に生まれる

1936年 波伯

1952年 絵画を始める

1950～60年代はサンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、パラナ、ミナスの各州のサロンに出品、各絵画賞を受賞サンパウロビエナーレに5回出品（1967年）外務省賞受賞

1972年 ヴェニスビエナーレからの招待で出品

1979年 全ブラジルの美術展で絵画賞個展（絵画）リオ・デ・ジャネイロ、サンパウロ、ブラジリア、他ニューヨーク、ワシントン、ローマ、ミラノ、リマ、ポルトリコ、東京、ロンドン、マイアミ個展（版画）1987、1993年にブラジル国内13都市で同時展覧会を開く合同展は、ブラジル国内の主な都市の他、ブエノスアイレス、コスタリカ、リマ、カラカス、パナマ、コルドバ、ボゴタ、メデリン、モンテビデオ、ラパス、ハバナ、カーリ、ニューヨーク、シカゴ、アトランタ、ワシントン、ロンドン、ヴィエナ、コペンハーゲン、ミラノ、ストックホルム、ローザンヌ、アテネ、ヘルシンキ、ブリュッセル、ポロニア、パリ、マドリッド、ヴェニス回顧展（1983年）30年の自己の画道を回顧してサンパウロ美術館にて開催、同時に画集“TOMIE OHTAKE”を出版

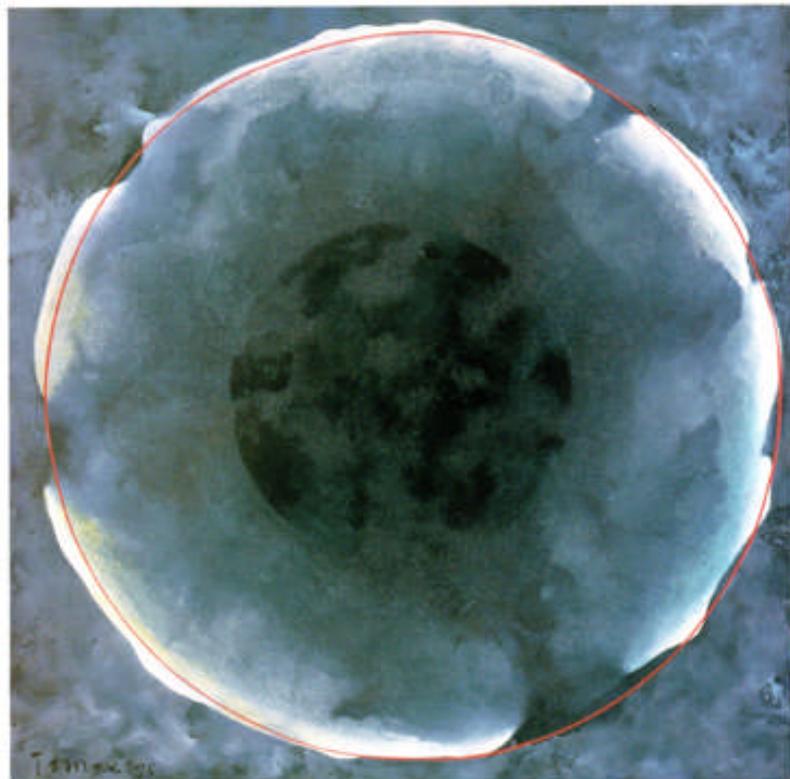
1980年後は公共広場に彫刻壁画等多数製作、日本移民80年記念の彫刻を（長さ30m）サンパウロ市内5月23日街に装置、フィゲレード画廊のプール、リオ・デ・ジャネイロのロドリーゴフレイタス湖に“浮ぶ彫刻”（直径20m）石川島造船所制作一、サンパウロ市内の一建物の壁面（140m四方）ラテンアメリカ記念館

壁画、メリーイマリレーテ学校の正面にパネル、サンパウロ市メトロのコンソラソン駅に壁画4枚、サンパウロ総合大学内に壁画、ブラジリアの建物N01の正面パネル舞台装置 オペラ“蝶々夫人”同“仮装舞踏会”巡回展リオ近代美術館（1993）、ロンドン、文化センター、バービカン、マイアミ（1994）、バース美術館（ニューヨーク）、アメリカソサエティ美術館（ワシントン）、アート美術館（1995）、1996年以後はヨーロッパ各地へ巡回の予定



大竹富江
TOMIE OHTAKE

1913年 京都に生まれる
1936年 渡米
1942年 結婚を断る
1940~49年代はマンハッタン、リネ・グロジェネイコ、バチャ、ミケリスの各
所のサロンに出品、各地画展を巡回
マンハッタンでエッセーに出品 (1947年) 西條照葉展覧
1950年 ヴェニスビエンナーレから招待出品
1979年 全アメリカの美術館で巡回展
展覧 (絵画) リネ・グロジェネイコ、マンハッタン、アウストラリア、聖・ニューデー
フ、ワシントン、ローマ、ミラノ、リマ、ポルトリコ、東京、ロンドン、マイアミ
展覧 (版画) 1947、1960年にアトリエ内には数社で同時展覧会を開く
自伝集は、アトリエ内には数社が、アムステルダム、スウェーデン、リマ、
ボタゴス、バチャ、ポルトリコ、ボゴタ、メキシコ、モンテビデオ、リマ、バハ



展覧 1
EN. J. 106
100×100cm



無題 11
EN 11 1990
100×100cm

岡山月香

TSUKIKA OKAYAMA

1908年 富山県に生まれる

1932年 渡伯

1958年 日系移住50周年記念展覧会

1968年 日系移住60周年記念展覧会

1971年 個展 ブラジル日本文化協会貴賓室

1973年 個展 カレンダス画廊

1974年 個展 KLM 画廊

1978年 日系移住70周年記念美術展特別参加

皇太子殿下歓迎特別美術展出品

ブラジル画壇に於ける日系美術家の貢献展 アルテグロバルギャラリー、同セスキカンペストレ

展示場

1979 - 89年 女流7人展に出品

1988年 日系移住80周年記念美術展 サンパウロ美術館

1993年 日本ポルトガル友好450周年記念美術展 FAAP 美術館

主な受賞及び叙勲

1963年 サロンパウリスタ展 銀賞

1973年 サロン文協展 金賞

1980年 ブラジル日本文化協会 高齢賞

1991年 ブラジル教育統合協会 アナ、ネリ名誉勲章（美術功労賞）



岡山月香
TSUKIKA OKAYAMA

1949年 岡山県に生まれる
1952年 渡伯
1958年 日本美術会第10回展覧会
1968年 日本美術会第15回展覧会
1971年 開催 プラジメ日本文化協会賞受賞
1973年 開催 コレシダス画廊
1974年 開催 KLM画廊
1978年 日本美術会第19回展覧会特別賞受賞
京土子地下鉄沿線特別企画展出品
プラジメ画廊に於ける日本美術会第15回展覧会「アルテアロハムギャラリー」
同セスキカンパストロ展出品
1979-80年 友誼工人展に出品
1988年 日本美術会第20回展覧会特別賞受賞 サンパウロ美術館



秋
AUTUNO 1977
100×110cm



春
PRIMAVERA 1979
90×110cm

沖中正男

MASSAO OKINAKA

- 1913年 京都市に生まれる
- 1928年 山本春挙早苗塾、大西佳挙に日本画を学ぶ
- 1930年 関西美術院、黒田重太郎に洋画を学ぶ
- 1932年 渡伯
- 1940年 サンパウロ芸術家協会、聖美会に入会
- 1951年 第1回サンパウロ・ビエンナーレ展出展
- 1954年 聖州展銀賞
- 1958年 サロン・ニチロイにて個展
- 1960年 聖美会展大金賞
- 1967 - 69年 チエルシー画廊にて個展
- 1971年 アメリカ、シカゴ他6大都市で巡回展
- 1972年 クリチーバ市立図書館にて個展
- 1975年 サロン現代美術展に出品

- 1977年 日伯現代美術展に出品
- 1978年 日本移民70年祭記念展、日本外務大臣賞買い上げ賞
- 1979年 日伯現代美術展に出品
- 1982年 サンパウロ美術館、日本6大都市巡回展

- 1984年 神戸市三宮ひこばえ画廊にて個展
- 1985年 東京朝日生命ビル美術画廊に出品
- 1987年 ニューヨークで在外日系画家展に出品
- 1988年 サンパウロ、移民80年記念日系画家展に出品
- 1990年 ブラジル文化功労章・大十字章叙勲。サンパウロ美術館で墨画展
- 1991年 FAAR アルマンド・ベンチアード大学、ゴヤニア現代美術館、サンパウロ大学で墨画展
リオ美港展に出品
- 1992年 グループ・グワナバラ50年代回顧展
- 1993年 神戸市三宮ひこばえ画廊にて第2回個展
州立ピナンテカ美術館 50年回顧展
- 1994年 USP サンパウロ大学で墨絵展



左
 GUN 1966
 120 × 100cm



沖中正男
 MASSAO OKINAKA

- 1927年 京都府に生まれる
- 1950年 日本青年学芸会、大内正幸に日本画を学ぶ
- 1956年 関西美術院、美田兼太郎に洋画を学ぶ
- 1957年 渡辺
- 1960年 オムハラの芸術家協会、美術会に入会
- 1961年 第1回オムハラのオムハラスペース賞受賞
- 1964年 豊州美術院
- 1966年 オムハラスペースにて初展
- 1968年 豊州美術院会長
- 1967-69年 オムハラスペースにて展覧
- 1971年 アメリカ、シカゴ地場大美術館で展覧
- 1972年 オムハラスペースにて展覧
- 1975年 オムハラスペースにて展覧



右
 YU 1966
 120 × 100cm

福島 近

TIKASHI FUKUSHIMA

1920年 福島県に生まれる

1940年 渡伯

1949年 リオ・デ・ジャネイロで絵を神永井正に学ぶ。後にグループグアナバラの創立に加わる。聖美会を経て77年より文協美術委員長を、79年より日伯美術展の委員を兼任し、多くの新人芸術家を世に送り出した。

1957年より個展をサンパウロ サロンニテロイ、アンビエンテ画廊、サンパウロ美術館、アステレイア画廊、リオ・デ・ジャネイロ コパカバーナ画廊、サンパウロドクメンタ画廊、ブラジリア国立ホテル、サンパウロ コスメベリョ画廊、アンドレ画廊、ベロオリゾンテ アミ画廊、ボンフィグリオリ画廊、バイア、ポルトアレグレ、サルバドール、ミナス等で開催する。

1951年よりのサンパウロビエンナーレ展には第1回から9回まで連続出品。ダラス美術展、第6回東京ビエンナーレ、ワシントン アメリカ日系画家展、グッゲンハイム美術館、カナダナショナルギャラリー、日伯美術展、他 ローマ、ミラノ、リスボン、パリー、ニューヨーク、ワシントン、スペイン等の国際展に出品受賞

1948年 サロンナショナル（国展）佳作賞

1957年 サロンパウリスタ展市長大賞

1958年 聖美会展大金賞

1960年 レオナルドブリゾーラ現代美術大賞

1962年 サロンパウリスタ展州知事現代美術大賞

1963年 サロンナショナル（国展）パリ旅行賞

1965年 サンパウロビエンナーレ展外務省買い上げ賞収蔵

サンパウロ大学現代美術館、リオ・デ・ジャネイロ近代美術館、ベロオリゾンテ美術館、クリチーバ近代美術館、ワシントンラテンアメリカ美術館、MOA美術館、サンパウロ州立絵画館、ロックフェラーコレクション、他



思いの世
LEMBRANÇA
100 × 120cm



福島 近
TIKASHI FUKUSHIMA

1937年 福岡県生まれ

1954年 渡辺

1956年 リオデジャネイロにおいて絵を専攻する。進修中ルーヴルアカデミーの
奨励を受ける。学生時代から77年より文芸春秋編集員も、79年より日
本美術の委員も兼任し、多くの展覧会に参加してきた。

1983年より個展をサンパウロ、サントスピリト、アムステルダム、マンハッ
タン、アステレイア画廊、リオデジャネイロ、ニューヨーク画廊、マンハ
ッタンメンテ画廊、ブラジリア国立美術館、サンパウロ、コスタペレーラ画廊
アムステルダム、ペトロシゾフ、アムステルダム、カンファグリアナ画廊、ハイブ、
ネトランクス、マルバドール、ミクス等で開催する。

1987年よりサンパウロセシエンテル館には毎月1回から9月まで連続出品。オ
ーストラリア、東京回展及びシンガポール、サンフランシスコ、アメリカ日本美術展、ブ
ンハイム美術館、カナダケベック美術館、日本美術展、他、ローマ、ミ



天と地
CIEU E TERRA
100 × 120cm

間部 学
MANABU MABE

- 1924年 熊本県に生まれる
- 1934年 渡伯
- 1959年 バルシンスキー画廊（リオ・デ・シャネイロ）
- 1960年 モンテビデオ・ブラジル—ウルグアイ文化院にて個展
- 1961年 ルベルス画廊（アルゼンチン）、クローチェ画廊（フランス）、オベリスコ画廊（イタリア）
- 1962年 パンアメリカン・ユニオン（ワシントン）、ラ・カバナ画廊（イタリア）
- 1964年 リマ近代美術院（ペルー）、ブラジル・アート・デラカサ画廊（イタリア）
- 1967年 ベロ・ホリゾンテ美術館、アストライア画廊（サンパウロ）
- 1968年 マークアップ画廊（メキシコ）、キャサリンヴィヴィアノ画廊
- 1969年 ブッフホルツ画廊（ポルトガル）
- 1970年 東京高島屋・アート画廊
- 1971年 ギャラリー・ドキュメンタ（サンパウロ）
- 1973年 徳間アートギャラリー（東京）
- 1975年 サンパウロ美術館・アシス・シャトーブリアン（サンパウロ）
- 1976年 ステファン・モルツ・ファインアート画廊（イギリス）
- 1977年 アンドレ・アート・ギャラリー（サンパウロ）
- 1978年 熊本県立、鎌倉市、大阪国立国際美術館（日本）
- 1980年 ロー美術館（フロリダ）、ラテンアメリカ近代美術館（ワシントン）

- 1982年 ミーティング・ポイント・アートセンター（フロリダ）、クーロス画廊
1984年 還暦記念展 アルテ画廊（リオ・デ・ジャネイロ）
1986年 サンパウロ美術館（ブラジル）
1988年 スペース・ラテンアメリカ（フランス）
1990年 アルケード画廊（フランス）、ビジュアル・アートギャラリー（ブラジル）
1991年 ヤマキアート画廊（大阪）、サイトウ画廊（名古屋）
1992年 ムラチ画廊（東京）、ツルヤ画廊（熊本）、カーサ・ブラジリア美術館（サンパウロ）

受賞

- 1953年 第1回コロニア展（聖美会）大銀賞、サンパウロ美術展名誉賞、第2回コロニア展コロニア賞
1957年 第6回サンパウロ近代美術展小金賞
1958年 第7回サンパウロ近代美術展大金賞、リオ・デ・ジャネイロ国立近代美術館買い上げ賞
1959年 第8回サンパウロ近代美術館州知事賞、第1回レイネル賞、
第5回サンパウロ・ビエンナーレ展国内大賞
第1回パリ青年ビエンナーレ展留学賞・ブラウン賞、南米作家招待展ダラス美術館買い上げ賞
1960年 第30回ベニス・ビエンナーレ展フィアット賞
1962年 第1回南米ビエンナーレ展コルドバ賞



思い出
RECORDAÇÃO 1986
117 × 100cm



間部 学
MANABU MABE

- 1949 熊本県に生まれる
- 1949 豊前
- 1969 バルンスキー画廊 (モスクワ・ロシア)
- 1969 ゴッティエロ・アッパレー・ヴァリアーニ美術館 (イタリア)
- 1969 カベルネ画廊 (アムステルダム)、フローレンス画廊 (アムステルダム)、オベリス
コ画廊 (イタリア)
- 1972 ヴィア・メトリコ・ニコロシ (フィレンツェ)、ラ・セ・バチ画廊 (イタリア)
- 1974 三木近代美術館 (札幌)、アトリエ・アート・テラセヤ画廊 (イタリア)
- 1975 ベルギー・ソント・ゲイル、アムステルダム画廊 (オランダ)
- 1988 マーフアップ画廊 (ロンドン)、セザンヌ・ヴィヴィアノ画廊
- 1989 マーフアップ画廊 (パリ)
- 1995 東京国立近代美術館
- 1995 セザンヌ・ヴィヴィアノ (パリ)



懐かしさ
TERNURA 1986
102 × 110cm

金子謙一
KENITCHI KANEKO

- 1935年 横浜市戸塚に生まれる
- 1956年 中央美術学園油絵科卒
- 1958年 三木富雄と2人展 銀座櫛画廊
- 1959年 第1回新エコール・ド・東京展に出品
- 1960年 渡伯
第12回読売アンデパンダン展に出品
- 1963年 第7回サンパウロビエンナーレ展に入選
- 1967年 第9回サンパウロビエンナーレ展に入選
- 1968年 サロンパラナに「祈り」を出品金賞
リオデジャネイロゲルディ画廊にて個展
- 1971年 サンパウロ建築家協会画廊にて個展
- 1972年 聖美会展に「ある移民の詩」を出品金賞
- 1976年 横浜市民ギャラリーにて個展
- 1978年 移住70周年記念美術展にて優秀絵画賞
- 1979年 映画に出演する 以後俳優としての活動を続ける
- 1985年 サロン文院展にて大金賞
- 1991年 カンピーナス現代美術館にて在伯30年記念個展
アンパーロ市ウンベルト フレデリッコ美術館個展

楠野 隆夫
TAKAO KUSUNO

- 1945年 北海道夕張市に生まれる
- 1967年 自由美術協会展出品
- 1968年 個展 シロタ画廊（東京）
個展 トーア画廊（神戸）
前衛10人展 富貴堂画廊（札幌）
- 1969年 グループ展「白」北宝ギャラリー（札幌）
京都野外造形展（京都）
- 1970年 エクスパンド・アート・フェスティバル参加（岸体育館）
- 1971年 白い容器の会（長野）
- 1972年 風倉匠と「火と風」のイベント（諏訪湖上にて）
- 1974年 Transforming Movements-Movements Transformations（東京ゲーティンステュート）を発表
- 1976年 渡伯
- 1977年 個展 南米銀行サロン

松沢宥 空白のパネル20人の作家・行為に参加（サンパウロビエンナーレ）

1983年 サロン文協展

ビラシカバ市近代サロン展

1983－94年 サロン文協展出品

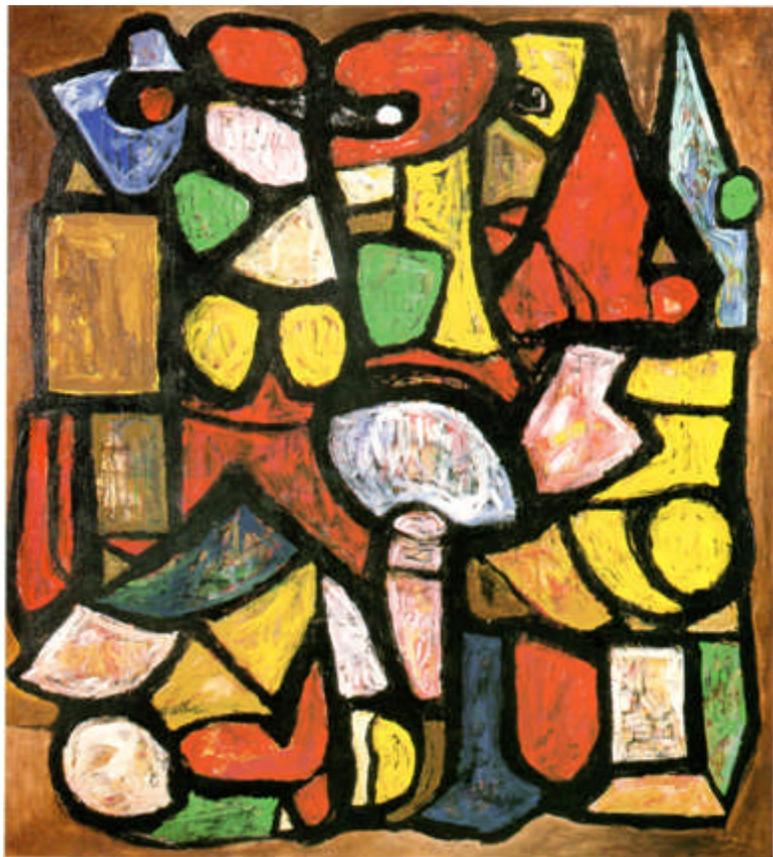
1972～現在 演劇・舞踊の演出、舞台美術・空間の制作を続ける受賞

1983年 サロン文協大金賞

1978年 APCA（サンパウロ州美術批評家協会）年間最優秀演出賞

1979年 第3回全国舞踊コンクール最優秀作品賞 Ex-Aequo

その他 文協美術展選考委員

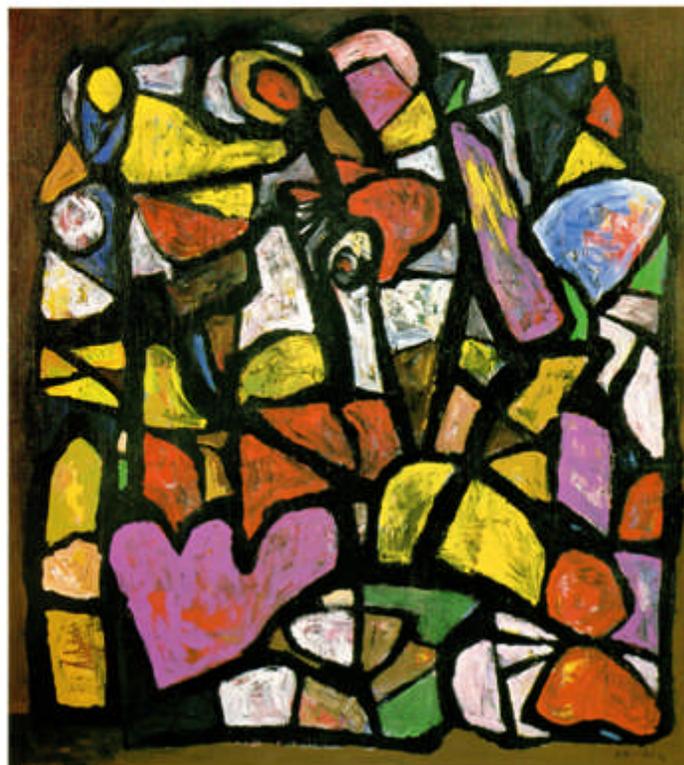


支えあって生きる人達
SUSTENTAÇÃO 1984
110×110cm



金子謙一
KEN'ICHI KANEKO

- 1955年 横浜市戸塚区に生まれる
- 1966年 中央美術学校油絵科卒
- 1969年 『木霊屋と人形』 劇団浅草橋
- 1970年 東京国鉄エコーカード東京駅の出店
- 1980年 渡辺
- 第23回読売アンデパンダン展出品
- 1983年 第7回ヤシハラウツタビエフェスティバル賞に入選
- 1987年 第5回ヤシハラウツタビエフェスティバル賞に入選
- 1988年 ヤシハラウツタビエフェスティバル賞を受賞
- 『オマケ』『オマケ』『オマケ』『オマケ』にて展覧
- 1971年 ヤシハラウツタビエフェスティバル賞を受賞
- 1972年 東京芸術院に『ある種の日』を出品
- 1974年 横浜市民ギャラリーにて展覧



江島湖の鳥
O PASSARO CAUTIVO 1984
110×110cm

楠野 友繁

TOMOSHIGE KUSUNO

1935年 北海道夕張に生まれる 60年、渡伯

1955 - 93年 個展30回 夕張、東京、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、クリチーバ、ポルトアレグレ、シアトル、モントリオール、オタワ、ワシントン

グループ展 サロン展 団体展 企画展

1949 - 59年 北海道美術協会展、創造美術会展、自由美術協会展、読売アンデパンダン展、日本アンデパンダン展、エコール・ド・東京展

1960 - 94年 グループ展14回 国内国外にて

1965年 パリ青年ビエンナーレ

1966年 緊急の60年代ラテンアメリカ作家展、ソロモングッゲンハイム美術館、ホイトニー美術館、コーネル大学美術館

1967年 サンパウロ国際ビエンナーレ

1968年 ラテンアメリカ現代美術コンクール選抜（ブエノスアイレス国立美術館）

1969年 第6回青年パリビエンナーレ選抜展（リオ・デ・ジャネイロ近代美術館）

1970年 大阪万国博覧会（EXPO'70）

1971年 ミデルハイム国際野外彫刻ビエンナーレ展

1976年 グラフィックアートビエンナーレ展（ラ・テルトウリア・カーリ美術館）

1978年 ブラジルアート展望（サンパウロ近代美術館）

1980年 ラテンアメリカビエンナーレ展（ミデリン近代美術館）

- 1981年 現代アートの模索と実験展（サンパウロ現代美術館）
今日の日本とラテンアメリカ現代美術展（大阪国立国際美術館）
- 1983年 サンパウロ国際ビエンナーレ展
- 1987年 今日のブラジル前衛作家展（サンパウロ州立絵画館）
- 1990年 大阪国際トリエンナーレ展
- 1994年 ブラジル近代美術100年展（サンパウロ国際ビエンナーレ） 収蔵
- 1962年 パラナ州教育文化省
- 1963年 サンパウロ現代美術館
- 1965年 ブラジル美術館 ブラジル外務省
- 1966年 モントリオール現代美術館
- 1967年 パンプリーア州立近代美術館
- 1969年 ブエノスアイレス国立美術館リオ・デ・ジャネイロ近代美術館
- 1975年 スタンフォード大学 ラテンアメリカ研究所
- 1977年 ラ・テルトゥリア・カーリ美術館
- 1978年 オースチン大学現代美術館
- 1980年 ラテンアメリカコレクション ウインドサウス館
- 1982年 北海道立近代美術館
- 1983年 夕張市立美術館
- 1985年 サンパウロ州立絵画館
- 1986年 サンパウロ近代美術館



楠野隆夫
TAKAO KUSUNO

- 1945年 北海道芦名市に生まれる
- 1967年 自由美術協会賛助員
- 1969年 韓国 ソコチ美術館 (東京)
- 韓国 ソコチ美術館 (韓国)
- 画家団員賞 富野安南画 (札幌)
- 1969年 グループ展「白」 北見ギャラリー (札幌)
- 北海道彫刻展 (函館)
- 1970年 スウェーデン・アート・フェア・ストックホルム展 (ソウェ)
- 1971年 白の白黒の会 (長崎)
- 1972年 札幌市立「天と地、のイベント」(観望閣上にて)
- 1973年 Transforming Movements-Movements Transfor
インスチテート) を発表
- 1976年 渡辺



白日夢—エンジェルが飛んでいく
QUIMERA: O ANJO VAI VOANDO 1995



K氏の散歩
O PASSEIO DO SR. K. 1980
98×70cm

木暮 光孝

MITSUTAKA KOGURE

1938年 群馬県安中市に生まれる

1960年 渡伯

1963年 第7回サンパウロ・ビエンナーレに出品

1965年 サロンエッソ（アメリカ大陸青年美術展）に出品（リオ・デ・ジャネイロ）

1972年 コロニア美術展（ブラジル独立150年記念展）で大金賞

以後連続出品

1982年 サンパウロ美術館展に出品

日伯現代美術展に招待出品

その他の美術展で13回受賞

個展27回

ロックフェラー財団 フォード自動車 サンパウロ市長他多数買い上げ

作品収蔵

サンパウロ近代美術館、エジトーラアブリウ美術館、ボリビア国立美術館、群馬県立近代美術館

現在

ブラジル日本文化協会美術委員、文協美術展審査委員



ボトシの風景
JAISAGEM DE POTOCI 1995
60×110cm



木暮光孝
MITSUTAKA KOGURE

1978年 群馬県立中央高校に生まれる
1980年 渡日
1983年 東京府サンパウロ・カトリック・カレッジに入学
1985年 サロン・エッセイ (アメリカ・大隈青年美術展) に出品 (リネ・ヂ・ヂョ・ド・ド)
1987年 コロニア美術展 (ブラジル・創立100年記念展) で大賞賞
以英連邦出品
1992年 サンパウロ美術展覧会に出品
自由現代美術展に出品作品
その他、美術展で13回受賞
展覧27回
コッパ・フェラー・村田 フェード・自動車 サンパウロ出品数多数回いどび



マチュ・ピチュ
MACHU PICHU 1999
100×120cm

越石 幸子

SACHIKO KOSHIKOKU

福井大学教育学部図工科卒業

在学中より、北美グループに所属し、武生、福井及び東京展に参加

全国学生油絵コンクールアジア青年美術家展、個展、二科展などに作品発表

1965年 渡伯

1966年 パウリスタ現代美術展（銀賞）72年まで出品

パンアメリカン青年美術家展（リオ近代美術館）

1967年 サンパウロ・ビエンナーレ

サロン・ヴィトリア（美術館買い上げ賞）、68年（グランプリ賞）

1968年 青年美術家展 サンパウロ近代美術館

1969年 現代ブラジル美術の展望 サンパウロ現代美術館

サロン・セイビ（金賞）

1970年 日系作家8人展 リオ近代美術館

ドクメンタ画廊にて個展（サンパウロ）

1971年 ブラジル現代作家20人展（シカゴ、ニューヨーク）

ジャパン・アート・フェスティバル リオ近代美術館

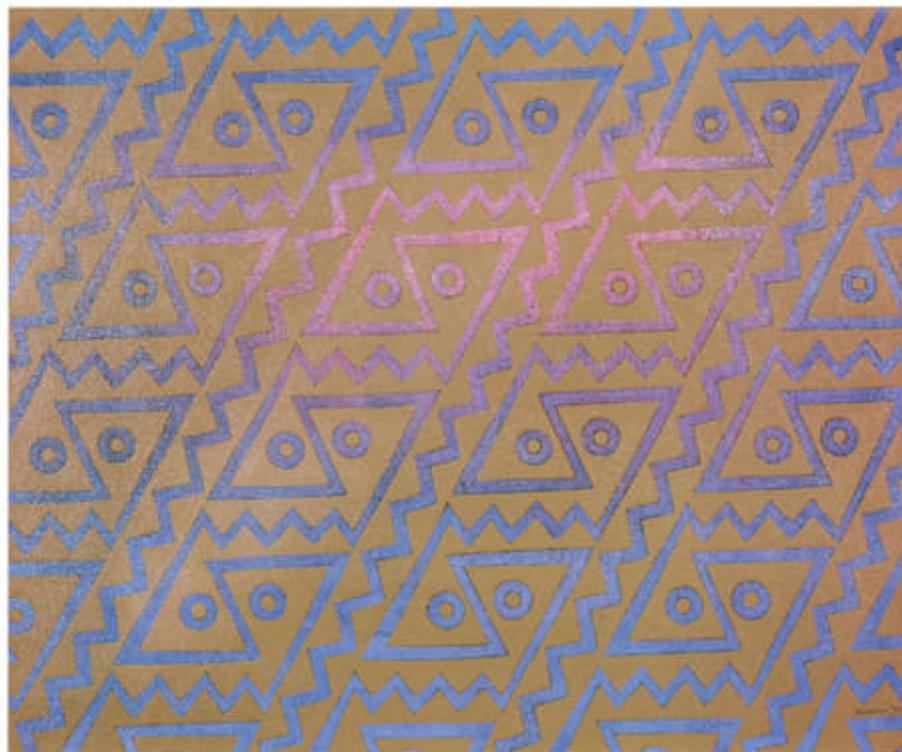
コパカバナ・パレス画廊にて個展（リオ）

1972年 パウリスタ現代美術展（絵画大賞）

ブラジル建築家協会画廊（ポルト・アレグレ）及びメインライン画廊（ブラジリア）にて個展

1973年 松坂屋画廊にて個展（東京）

- 1974年 サロン・文協展（大金賞）
- 1979年 女流作家8人展 サンパウロ現代美術館
- 1981年 サンパウロ美術館にて個展
「現代ラテンアメリカ美術と日本」国立国際美術館（大阪）
- 1982年 サンパウロ美術館巡回展（東京、三重、熊本、名古屋他）
アナ・マリア・ニーマイアー画廊にて個展（リオ）
- 1983年 現代ブラジル作家5人展（シカゴ）
日本移民へのオマージュ展 サンパウロ州立美術館
- 1984年 現代日本美術とブラジル作家展 デコ画廊（サンパウロ）
- 1988年 移民80周年記念展 サンパウロ美術館
女流作家10人展 音と映像の美術館（サンパウロ）
いづみ画廊（福井）にて個展
- 1989年 今立紙展（武生市）
- 1991年 福井県立美術館にて個展
- 1993年 ポルトガルと日本友好展 ブラジル美術館（サンパウロ）



横田 11
COMPOSIÇÃO II 1995
100 × 120cm



越石 幸子
SACHIKO KOSHIKOKU

新井大学美術学部応工科卒業
在学中より、北美グループに所属し、武蔵、制作舎が主催展に参加
全国学生協賛エンターテインメント青年美術展、個展、二軒館などに作品発表
1965年 個展
1966年 パナシス現代美術展（個展） 72年まで出品
パンアメリカン青年美術展（リオ近代美術展）
1967年 サンパウロ・ビエンナーレ
サロン・マトリア（美術界目上げ賞）、89年（デザイン賞）
1968年 青年美術展（サンパウロ近代美術展）
1969年 現代ブラジル美術の風景（サンパウロ近代美術展）
サロン・セイビ（企画）
1979年 日本作家大賞 リオ近代美術展
ブラメンタ画廊にて個展（サンパウロ）



横田 1
COMPOSIÇÃO I 1992
100 × 120cm

近藤 恵津子
ETSUKO KONDO

1947年 熊本に生まれる

1958年 渡伯

1970年 アキ・ギャラリー（サンパウロ）にて個展

1974年 ポント・デ・アルテ・ギャラリー（リオ・デ・ジャネイロ）にて個展

1975～現在 毎回サロン文協展に出品

76年に銀賞 78年に3等賞 79年に金賞 89年に大金賞

1980年 第2回日伯現代美術展（東京、熱海、京都、ブラジリア、サンパウロ）に出品

1981年 サロン・ナショナル・デ・アルテ・パブロピカソ展にて銅賞

サロン・デ・アルテス・プラスチック・エ・ビジュアル展

パッソ・ダス・アルテ美術館（サンパウロ）に出品

1982年 第1回サロン・パウリスタ・デ・アルテ・コンテンポラーニア展に出品

第7回サロン・リベロン・プレート展に出品

1983～現在 毎回チャペルアートショウに出品

1986年 ア・アルテ・ナ・イストリア・ダ・イミグラソン・ジャポネーザ展（サンパウロ美術館）に出品

1991年 デコ・ギャラリー（サンパウロ）にて個展

1993年 ブラジリアン・アート展（ビスカイア美術館・マイアミ）に出品



作品 95-6
CBRA 95-6 1991
100×100cm



近藤 恵津子
ETSUKO KONDO

- 1947年 熊本に生まれる
- 1968年 渡米
- 1970年 アート・マーケットリー（サンパウロ）にて展覧
- 1974年 ボン・ド・アルカチ・マーケットリー（リオデジネイロ）にて展覧
- 1975〜現在 独住ヤマト文庫館に出品
- 76年に展覧、78年と3年展、79年に全米、80年に大連展
- 1986年 第1回日刊現代美術展（東京、横浜、京都、プタジニア、サンパウロ）に出品
- 1987年 マロン・サントスピリト・アルチ・ピアロ・ロドリゲスにて展覧
- マロン・アルカチ・ブキ・サント・ロドリゲス展
- パンプ・ド・アルカチ美術展（サンパウロ）に出品
- 1988年 第1回サンパウロ・アルチ・ピアロ・ロドリゲス展にて出品
- 第1回サンパウロ・ベロン・プレート展に出品



作品 95-5
CBRA 95-5 1991
100×100cm

近藤 敏
BIN KONDO

1937年 旧満州に生まれる

1960年 武蔵野美術学校を卒業 同年に渡伯

1963年 サンパウロ ビエンナーレ展に出品 以後69年まで毎回出品

ジョーベンデゼンニョ・ナショナル展 サンパウロ現代美術館 1等賞

1964年 グループ ファーズ（パリ）に入会后、フランス、ベルギー、イタリア、チェコスロバキア、ブラジルにて作品を発表

1965年 第4回パリ青年ビエンナーレにブラジル代表として出品アルテイルナチーベ アツットウアーリ展（イタリア）に出品

1966年 ブラジル最初の個展をゴエルジギャラリー（リオ・デ・ジャネイロ）で開く

以後コパカバーナパレスギャラリー（リオ・デ・ジャネイロ）、ボトレギャラリー、アートアートギャラリー、アポンテギャラリー、デコギャラリー（サンパウロ）、オスカルセラフィコギャラリー、ポルトアレグレ、ヤジジギャラリー（ブラジリア）、桜画廊（名古屋）、91年に竹内画廊にて国島征二と2人展、93年に丸栄画廊サロンにて2人展、カンピーナス美術展で金賞を受賞

1968年 第1回サントス美術展で大賞、ベロ・オリゾンテ美術展で2等賞

1969年 サロン・セイビ展で大金賞

1970年 ブラジル現代美術展でオランダ、デンマーク、スウェーデン、ノルウェーを巡回

1981年 現代ラテンアメリカ美術と日本展国立国際美術館（大阪）

1982年 サンパウロ美術館展（日本各地巡回）



作品 II
WORK II 1995
80×100cm



近藤 敏
BIN KONDO

- 1977年 兵庫県に生まれる
1980年 武蔵野美術学校を卒業 同年に渡欧
1987年 サンパウロ・ビエンナーレ展に出品 以降毎年まで毎回出品
ジョージアでエンデュナシエナム展、サンパウロ現代美術展
1991年 フォーブ・ブアーズ（パリ）に入会 独、フランス、ベルギー、
ア、オーストリアの4カ国、ブダペストにて作品を発表
1995年 第4回パリ青年ビエンナーレにアジアの代表として出品
アルキムナチーレ、アブジウアーリ展（イタリヤ）に出品
1996年 プラジダ最初の個展をズエラジヴェツキー（リトアニア）にて
（



作品 I
WORK I 1995
100×100cm

- 1984年 モダンアート ブラジル—ジャパン展（サンパウロ）
- 1988年 移民80周年を記念してブラジル各地にて展覧会を開催
- 1991年 “60年代そして今のあなた”展 サンパウロ現代美術館
竹内画廊にて国島征二と2人展
- 1993年 ブラジリアンアート展 ビスカイア美術館（マイアミ）
丸栄画廊サロンにて2人展
日本—ポルトガル友好450年記念美術展 ブラジレイラ美術館（サンパウロ）
- 1994年 ビエンナーレブラジル20世紀展 パビリオン・ビエンナル（サンパウロ）

齊藤 香穂子
KAHOKO SAITO

1928年 東京に生まれる

多摩美術学校中退

1959年 渡伯

サンパウロに住む

1962年 ペルナンブコ州オリンダ市に移住

1969年 サロン聖美（サンパウロ）で銅賞

1971年 文協で個展（サンパウロ）

1972年 ペルナンブコ州レシフェ市で個展

1974年 文協展で南銀賞

1977年 文協展で金賞

1979年 ペルナンブコ州展で買い上げ賞

オリンダ現代美術館展で佳作賞

1981年 デコ画廊で個展（サンパウロ）

以後1994年まで毎年2人展、5人展、個展（主にペルナンブコ、ベレン、ナタール、等）



齊藤香穂子
KAHOKO SAITO

1929年 東京に生まれる
多摩美術学校中退
1959年 建築
サンパウロに赴む
1962年 ヘルナンデスコレジウムで教員
1969年 サロン聖光（サンパウロ）で展覧
1971年 文藝春秋社（サンパウロ）
1972年 ヘルナンデスコレジウムで教員
1974年 美術館で教員
1977年 文藝春秋社



休息人
PESSOA DISCANÇADO
1961・120cm



太陽
SOL
1971・120cm

榊原 久夫

HISSAO SAKAKIBARA

1937年 東京に生まれる

1959年 読売アンデパンダン展 銀座櫛画廊
グループ 新エコール・ド・東京結成、入会

1960年 読売アンデパンダン展
第1回グループ新エコール・ド・東京展
9月、渡伯1年農業に従事

1962年 カンピーナス 個展

1963年 選抜日系画家展（リオ・デ・ジャネイロ）

1964年 選抜日系画家展リオ・デ・ジャネイロ近代美術館

1965年 サンパウロ個展

聖美会展 銅賞

サンパウロ州立展 銅賞

1966年 日系画家19人展 サンパウロ現代美術館 作品買い上げ

聖美会展 買い上げ賞

サンパウロ州立展 買い上げ賞 銀賞

1967年 第9回サンパウロ国際美術展

ミナスジェライス州展 買い上げ賞

聖美会展 買い上げ賞

ブラジリア展 買い上げ賞

1967 - 79 年 美術活動停止

1980 年 サンパウロ文化協会展 小金賞

1981 年 サンパウロ文化協会展 大金賞

以後1991年の訪日まで、多数の公募展及びグループ展に参加、今日に至る。

1983 年 日本移民記念展（サンパウロ）

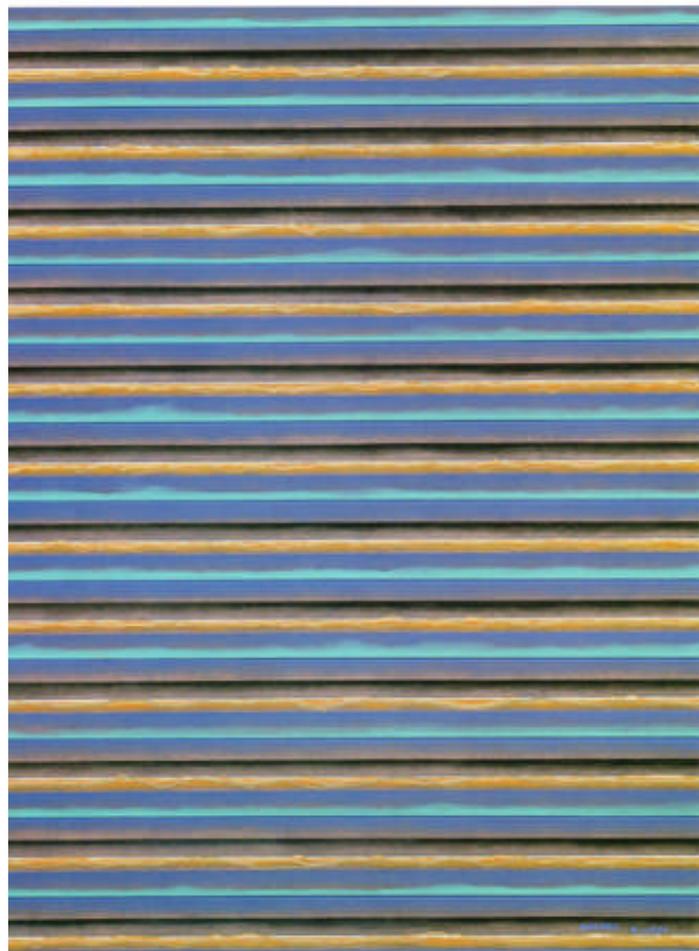
1984 年 サロンナショナル展（リオ・デ・ジャネイロ）

1986 年 日本移民78年記念展 サンパウロ美術館

1988 年 日本移民80年記念展 サンパウロ美術館賞収蔵

サンパウロ現代美術館

ピナコテッカ・ド・エスタード美術館



作品 B
"B" 1995
20×30cm



榑原久夫
HISSAO SAKAKIBARA

- 1977年 東京に生まれる
- 1981年 読売アンサンブル(弦)部 副指揮者
グループ 新エコーレーヴ(東京編成、入会)
- 1983年 読売アンサンブル(弦)部
第1回グループ新エコーレーヴ(東京編成)
8月、脱退、1年音楽に専事
- 1987年 コンセーナス 創設
- 1993年 読売日本音楽学院 (ソナタ・ジャズ・イロ)
- 1994年 読売日本音楽学院 (ソナタ・ジャズ・イロ) 近代音楽部
- 1995年 サンパワの創設
聖公会 副牧
サンパワの創立 副団
- 1998年 日本演劇社入会 サンパワの代表取締役 (音楽部)



作品 A
"A" 1995
20×30cm

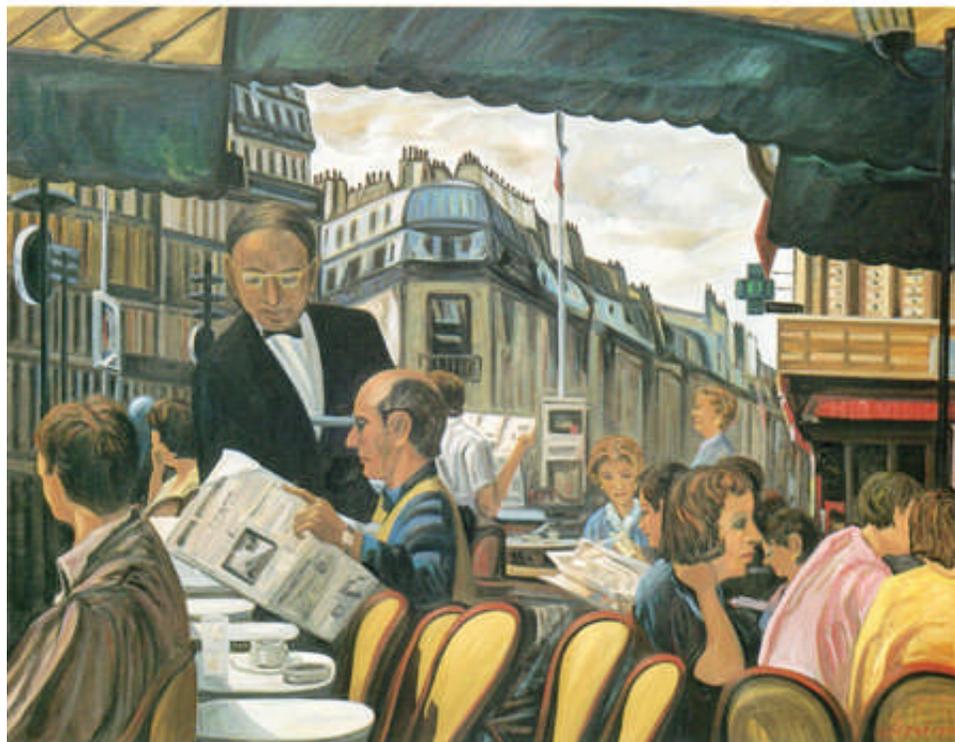
白井 久雄
HISAO SHIRAI

- 1937年 茨城県に生まれる
- 1955 - 56年 茨城県展入選
- 1958年 日大芸術学部中退
- 1964年 サロンセイビ展出品（リオ現代美術館）
- 1965年 サンパウロ州立展銀賞
- 1966年 サロンセイビ展金賞
- 1967 - 69年 第9、10回サンパウロビエンナーレ展出品
- 1973年 茨城にて個展
- 1975年 東京にて個展
- 1976年 サロン文協展金賞
- 1977年 日伯美術展招待出品、東京にて個展
- 1978、79、80年 赤坂アートギャラリーにて個展
- 1980年 大阪21世紀ギャラリーにて個展
- 1981、82、83年 銀座三越にて個展
- 1983年 大阪三越にて個展
- 1984、86、89年 銀座三越にて個展
- 1991年 大阪プチ・マルシェにて個展



白井久雄
HISAO SHIRAI

1937年 茨城県に生まれる
1955-56年 茨城県立入道
1959年 日本芸術学協会員
1964年 サロンセイと展出品《ミヤ現代芸術展》
1965年 サロンワロワ展出品
1966年 サロンセイと展出品
1967-68年 東京、14回サロン・ド・ロンドン・展出品
1973年 茨城にて開展
1975年 東京にて開展
1976年 サロン・文藝展出品
1977年 日仏美術展出品、東京にて開展
1978、79年 赤坂アートギャラリーにて開展
1980年 入道1世紀メモリアルにて開展



作品 B
OBRA B 1984
90×115cm

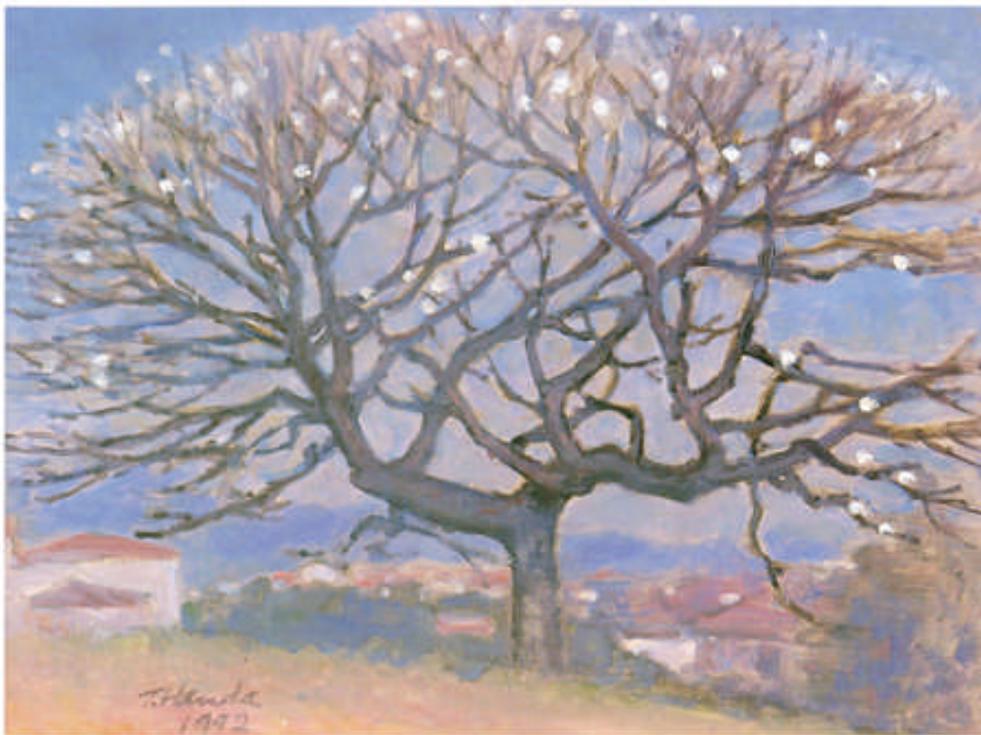


作品 A
OBRA A 1980
90×115cm



半田知雄
TOMOO HANDA

- 1909年 東京に生まれる
- 1917年 コーヒー園の労働者として父母とともに渡米
- 1921年 サンパウロ市に移転し仕事をしながら絵の勉強を始める
- 1922年 サンパウロ美術学校に入学
- 自由研究として絵の勉強を1929年まで続ける
- 1925年 両親とともにサンパウロ美術研究会を組織する（第1期）
- 1926年 第1回展覧会を開催する
- 1928年 美術研究のために日本、フランス、英国、イタリア、ポルトガル等に行き回る
- 1930年 サンパウロからアタハイア市に移転する
- 1934年 協会の創立者であり作品選考委員であるため、いくつかの賞を受けず、作品の大部分はサンパウロ評議員利権に収蔵されている



冬のバイネイラ
PAINEIRA DE INVERNO 1992
油・60cm



サンパウロ郊外の景色
PAISAGEM DE SÃO PAULO 1984
油・60cm



南野友繁
OMOSHIGE KUSUNO

- 1971年 北海道庁に生まれる。神戸、京都
- 1994-95年 展覧会 京都、東京、サンパウロ、リオデジャネイロ、オランダ、ベルギー、アムステルダム、シエラレオネ、セントルイス、モナコ、ワシントン
- 2000年 大阪府 津波復興 復興展
- 2004-05年 北海道美術協会、道島美術協会、自由美術協会、現代アート・センター、日本アンパ・パシフィック、エコー・オブ・東京展
- 2008-09年 グループ展 3回 国内海外にて
- 2007年 11年芸術センター
- 2008年 聖心女子学院ラテンアメリカ学芸会、アソシエーション・オブ・アーティスト、キートン美術展、コークス大学美術展
- 2007年 サンパウロ国際ビエンナーレ
- 2009年 カナダ・アメリカ現代美術コンクール選出(アルナス・アインズ同主催)
- 2009年 第4回青年のビエンナーレ選出(リオ・アムステルダム現代美術)



ハイハイ・ブrazil・シリーズ 藍のジャケット
"SÉRIE BYE-BYE BRAZIL" BLEU PALETO 198
125 x 100cm

鈴木 章子
SHOKO SUZUKI

1929年 東京に生まれる
唐杉涛光に師事

1957年 東京都調布市小島町に窯築窯 甲州路窯と名附く

1955年 グループ展 東京安藤画廊

1957 - 62年 東陶会に所属 東京都美術館、三越画廊展出品

1958年 日独交換展 東京上野松坂屋

1960年 青年デザイン協会展 東京都白木屋画廊

1960 / 61年 三軌会展

1962年 女朶火展 東京養生堂画廊
渡伯

1966年 サンパウロコチャ市現住所に三室登窯築窯 彩窯と名附く

個展

1967年 初窯展 アトリエ及野外に開く

1968年 アシエイ画廊 (サンパウロ)

1971年 イパネマ画廊 (リオ・デ・ジャネイロ)

1973年 ユーカテックス画廊 (サンパウロ、クリチーバ)

1975年 サンパウロ美術館

1976年 ボニノ画廊 (リオ・デ・ジャネイロ)

- 1978年 ミナス州立美術館（ベロオリゾンテ）
- 1980年 日本移民記念展 サンパウロビエンナーレ会館
- 1981年 ボニノ画廊（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1983年 サンパウロ画廊（サンパウロ）
- 1984年 ブラジリア州立文化会館（ブラジリア）
- 1988年 トーキ画廊（サンパウロ）
- 1991年 ケーテ画廊（サンパウロ）

参加展

- 1980年 ブラジリア州立文化会館
- 1982年 アート文化会館（カンピーナス）
- 1986年 筑波国際今日の化学展 ブラジル館に出品（日本）
日本移民記念展 サンパウロ美術館
現代の陶器展 岡田茂吉会館（サンパウロ）
- 1987年 現代の陶器展 パッソスダスアルテ美術館
- 1988年 日本移民80周年記念展 サンパウロ美術館リオデザインセンター
- 1993年 ブラジル陶芸展 リオBHD会館



鈴木章子
SHOKO SUZUKI

1947年 東京工芸大学
資料館長に就任
1977年 東京芸術大学小島町に常設館 甲冑館長と名附く
1979年 アムステルダム 東京芸術館駐
1977-82年 美術会に所属 東京都美術館、三越州館駐館員
1988年 日本美術展 東京上野公園
1988年 青年アイン協会 東京都白子屋敷
1988-91年 三越会館
1992年 文化文庫 東京養生堂再興
役員
1996年 センターコロッセオ・山崎住居に三越常設館 新築と名附く



鈴木 幸男

YUKIO SUZUKI

1926年 宮城県に生まれる

個展

1955年 銀座サエグサ画廊 2人展

1968年 LOJA ACHEI (サンパウロ)

1970年 コパカバーナ画廊 (リオ・デ・ジャネイロ)

1972年 サンパウロ建築家協会 (サンパウロ)

1974年 ポンテ・デ・アルテ画廊 (リオ・デ・ジャネイロ)

1976年 パウロプラド画廊 (サンパウロ)

1977年 オスカーセラフィク画廊 (ブラジリア)

1979年 イパネマ画廊 (リオ)

1980年 移民祭参加展 パビリオンビエンナーレ (サンパウロ)

1985年 ボニーノ画廊 (リオ)

1987年 トーキ画廊 (サンパウロ)

1992年 作家のアトリエ展 (サンパウロ)

グループ展、協力展、公募展

1951-61年 三軌会展 (東京)

1965-71年 聖美展 (サンパウロ)

1977-94年 サンパウロ文協展 美術委員・審査員

1973年 ユカテックス4人展 (サンパウロ)

1975年 4人展—現代展 (コチア)

- 1978年 移民祭参加展（サンパウロ）
移民祭協力展（サンパウロ）
- 1979年 BADEP クリチーバ展（ブラジル）
- 1979－82年 南米銀行画廊—移民祭協力展（サンパウロ）
- 1984年 モロンビー ショッピングセンター記念展参加（ブラジル）
- 1985年 筑波移民祭協力展（日本）
- 1986年 日系作家選抜展 サンパウロ近代美術館（サンパウロ）
- 1987年 選抜展（ブラジリア）
- 1988年 彫刻画廊 日系作家によるアクセサリー展参加（サンパウロ）
- 1991年 第3回サントスビエナーレ展参加
- 1993年 ポルトガル日本友好450年祭参加
選抜展（ポルトアレグレ）
選抜展—日系作家（カンピーナス）
- 1967／73／77年 サンパウロビエナーレ国際展（サンパウロ）
- 1965－68年 聖美展にて受賞
- 1969年 グランプリ受賞（サントアンドレ）
- 1971／75／78年 ベロオリゾンテ展グランプリ受賞パンプリア美術館（ブラジル）
- 1974年 カンピーナス 買い上げ賞（サンパウロ）



鈴木幸男
YUKIO SUZUKI

1925年 兵庫県に生まれる

籍貫

1955年 新井サエ子展覧会 2人展

1969年 【GIAA AC】展 (サンパウロ)

1974年 コパカバーナ展覧会 (リオデジャネイロ)

1977年 サンパウロ建築家協会 (サンパウロ)

1974年 エンテ・ア・アルテ展覧会 (リオデジャネイロ)

1974年 ハコブタ展覧会 (サンパウロ)

1977年 オスカー・ニキフォロ展覧会 (ブタペスト)

1979年 イ・エウ展覧会 (リオ)

1980年 横浜芸術会館 日比谷ロビンソンホール (サンパウロ)

1985年 ボニーノ展覧会 (リオ)

1987年 ヌーネ展覧会 (サンパウロ)



土本 真澄

MASUMI TSUCHIMOTO

1934年 岐阜県土岐市に生まれる

京都、大阪、東京にて個展

モダンアート協会に出品

四耕会会員

1959年 ブラジルに永住

カンピーナス現代美術展にて大金賞

ジュンジャイ現代美術展にて大金賞

聖美会に於いて大金賞

エッソ現代美術展にて大金賞

現代セントロインターナショナル・ド・フランス展（パリ）金賞

ブラジル各地にて個展23回

ワシントン、ニューヨーク、日本各地にて個展13回

サンパウロ国際ビエンナーレ展に出品3回

ワシントン、ニューヨーク、パリ、ウルグアイ、ポルトガル、イギリス等に招待出品



土本真澄
MASUMI TSUCHIMOTO

- 【1917年】 岐阜県土岐市に生まれる
京都、大塚、東京にて美術
モダンアート協会に出品
肉筆会会長
- 【1999年】 アラビヤに赴任
カンセキ美術現代美術展にて大賞
ジュンジャイ現代美術展にて大賞
新美会に於いて大賞
ニッソ現代美術展にて大賞賞
現代セントロインターナショナル・オブ・フランス展（パリ） 賞
アラビヤ各地にて個展12回



豊田 豊

YUTAKA TOYOTA

- 1931年 山形県天童市に生まれる
- 1954年 東京芸術大学美術学部工芸科卒業
- 1954－57年 静岡県立工業試験場に奉職
- 1965－69年 ヨーロッパに渡りミラノに滞在する
- 1972年 ブラジル国籍を受ける

受賞歴

- 1954年 東京芸術大学卒業制作が文部省買い上げになる
- 1966年 イタリアミラノ市ピアツエッタ賞第1席
- 1968年 第2回サルバドールビエンナーレ展グラン・プレミオ最高賞
- 1969年 第10回サンパウロ国際ビエンナーレ展 外務省とボストン銀行賞
- 1972年 現代ブラジル作家選抜展（サンパウロ現代美術館主催）最高賞
- 1979年 大平正芳内閣総理大臣より紺綬褒章
- 1981年 ブラジリア主都政府より騎士章
- 1991年 サンパウロ美術評論家協会選考にて90年度の最優秀彫刻家賞
- 1993年 第1回フジサンケイ野外彫刻ビエンナーレ展優秀賞

モニュメント制作歴

- 1977年 佐藤千夜子顕彰碑建設会の招きでブロンズにて記念碑を制作（山形）
- 1978年 サンパウロ市制400年祭記念日にセ広場に動く彫刻を設置
- 1979年 北海道豊富町自然公園に動く彫刻を制作設置 ステンレス 4.3 × 4.0 × 4.0m

1981年 ブラジリア主都空港前サーラ・クビチェッキ円形広場にアルミニウム彫刻を設置 16.0 × 3.0 × 18.0m

1990年 ナニ・マウ・ガーデン花公園にステンレス彫刻2基設置 7.0 × 1.9 × 3.5m / 7.4 × 1.5 × 1.3m (ハワイ)

1992年 裾野市文化センター前公園に動く彫刻を設置 (静岡)

個展歴

1965年 カーザ・ド・ブラジル画廊 (ブラジル大使館) (ローマ)

1970年 第10回カーリ芸術祭に特別招待出品 (コロンビア)

1979年 日本橋高島屋画廊 (東京)

1982年 テルツーリヤ現代美術館 (カーリ コロンビア)

グループ展歴

1969年 第10回サンパウロ国際ビエンナーレ展 (サンパウロ)

1971年 第11回アントワープ国際彫刻ビエンナーレ展 (アントワープ)

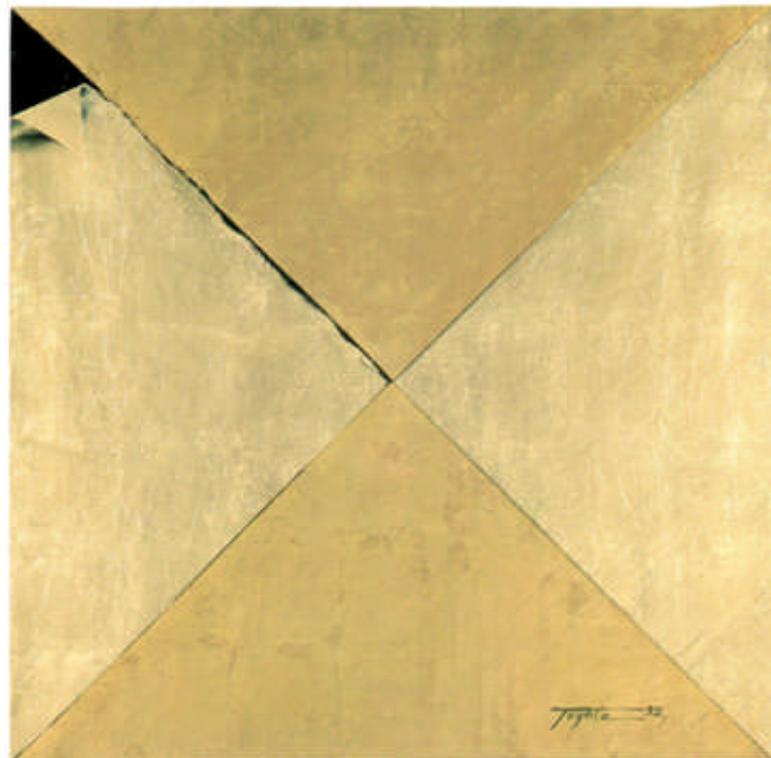
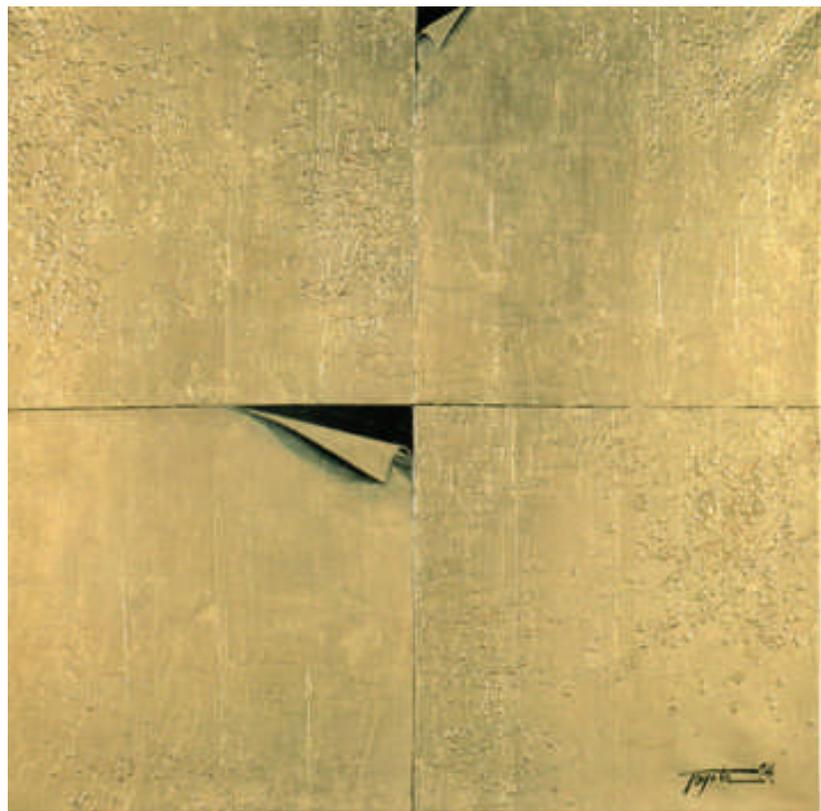
1981年 国立国際美術館 ラテンアメリカ作家展 (大阪)

1990年 ジョルナール・ド・ブラジル新聞社コレクション展 (リオ・デ・ジャネイロ)



豊田 豊
YUTAKA TOYOTA

1931年 山形県天童市に生まれる
1954年 東京芸術大学美術学部工芸科卒業
1954-57年 群馬県立工業試験場に所属
1963-66年 コーロパに在りミラノに滞在する
1970年 アラビヤ回遊を始める
受賞歴
1954年 東京芸術大学卒業制作が文部省賞い上げになる
1966年 イタリアミラノ形と空間展第1回
1968年 第1回ヤルバドールビエンナーレ展ブザン・ア・レ・イ・グロワ
1969年 第1回サンパウロ国際ビエンナーレ展 外国画とグラフィック部門
1972年 現代グラフィック作家選集展 (サンパウロ現代美術館主催) 最高賞
1979年 大平正方内閣総理大臣より経世賞章
1981年 アラビヤ主催政府より勲1等



錯覚の空間 I
ESPAÇO ILUSÃO No.1 1980
201 x 180cm

原田 美弥子

MIYAKO HARADA

1963年 広島県に生まれる

1984年 京都芸術短期大学日本画料修了

1992-93年 パリ、ニューヨーク遊学

1984年～ ブラジル（サンパウロ市）在住

1984-87年 日伯文化協会にてグループ展（サンパウロ）

1986-91年 サロン文協美術展（サンパウロ）

87年、銀賞

89年、ACRILEX賞

90年、金賞

1989年 DECO 画廊にて個展（サンパウロ）

1990-91年 SANTO ANDRE 現代美術展（サンパウロ）

90年、審査員特別賞

1990年 ブラジル・アメリカ文化センター青年美術展（サントス）

MOA ブラジル美術展（サンパウロ）

1992年 DECO 画廊にて3人展（サンパウロ）

1994年 ブラジル中央銀行カルチャースペースにて個展（サンパウロ）



原田美弥子
MIYAKO HARADA

1962年 北海道生まれ
1981年 京都芸術短期大学日本画科終了
1982-83年 バリ、ニューオータニ留学
1984年〜 プラジシ（サンパウロ市）在住
1984-87年 日伯文化協会にてグループ展（サンパウロ）
1988-89年 サロン芸術家展（サンパウロ）
87年、画展
89年、ACRILEXX展
90年、京展
1989年 DECO展にて個展（サンパウロ）
1986-91年 SANTO ANDRE現代美術展（サンパウロ）
90年、審査員特別賞



誕生 I
NASCIMENTO I
100 × 120cm

廣田 建一

KEN' ICHI HIROTA

- 1932年 新潟県西蒲原郡分水町に生まれる
- 1951年 第1回全日本学生油絵コンクール展（東京）
- 1952年 第16回新制作美術協会展（東京）
- 1953年 村山陽と2人展（新潟）
- 1954年 東京に出て洋画を学ぶ
- 1956－68年 新世紀美術協会展（東京）
57年、北村賞・会員推挙 66年、会員努力賞
- 1963年 個展 此花画廊（東京）
個展 中央画廊（東京）
- 1964年 個展 中央画廊（東京）
- 1966年 個展 小林デパート（新潟）
- 1968年 大東京信用組合の玄関にオブジェ（3.30 × 1.80 × 0.50m・金属）を制作（東京）
- 1971年 メキシコに渡り2年半過す
- 1972年 個展 ホテル・クリストバル・コロソ（メキシコ）
- 1971－73年 ロス・アンゼルスに3度旅行
- 1973年 ガテマラ、パナマ、ペルー、ボリビア、アルゼンチンを旅し、ブラジルに入国
- 1974年 現代日本版画（シルク）コスモス展にブラジル側から参加 サンパウロ現代美術館
第8回現代青年美術展 サンパウロ美術館
ブラジルの永住権を得る

第3回サロン文化協会展、大銀賞（サンパウロ）

- 1975年 楠野友繁、鈴木幸雄、豊田豊と4人展 ヤジギ（サンパウロ）
- 1976年 個展 ア・ポンチ画廊（サンパウロ）
- 1977年 第14回サンパウロ国際ビエンナーレ展にブラジル側から出品
- 1978年 日本移民70年祭展（サンパウロ）

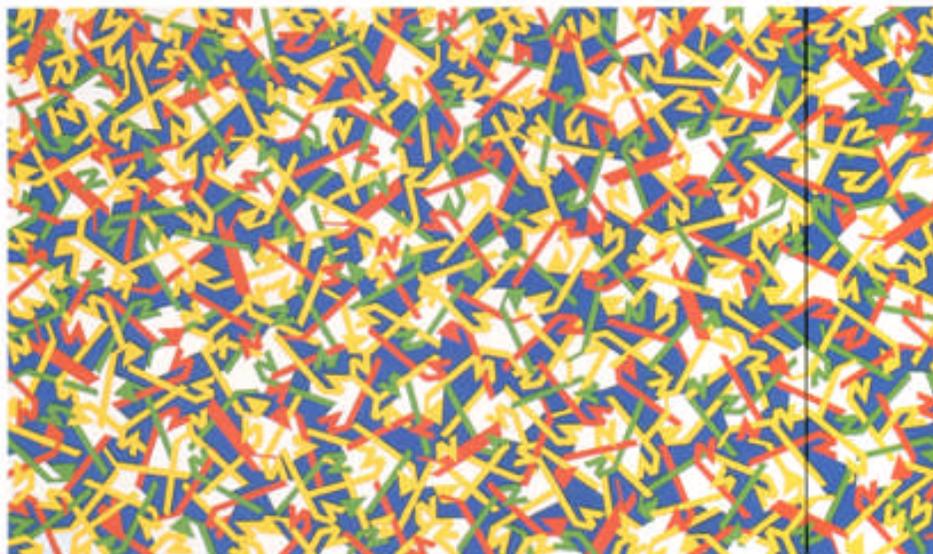
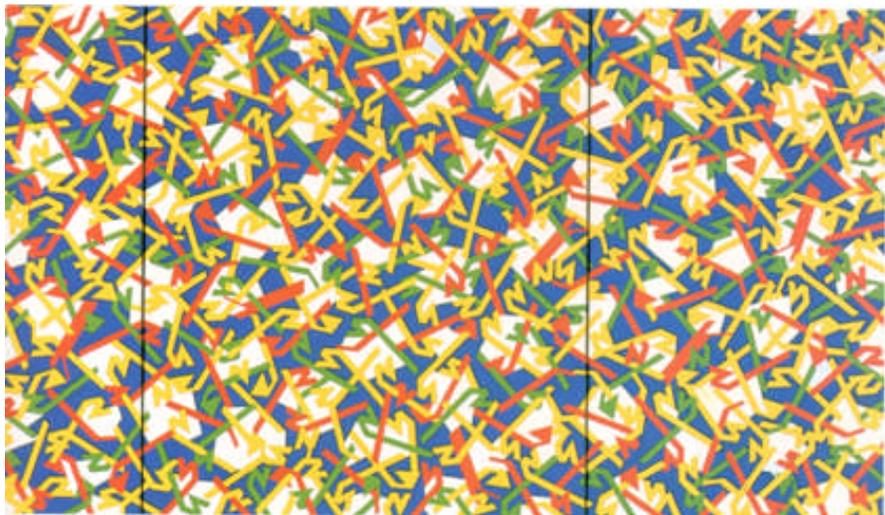
第10回サロン・ベロオリゾンテ展 買い上げ賞 ベロ・オリゾンテ美術館

- 1981年 豊田豊と2人展 オスカル・セラフェコ画廊（ブラジリア）
- 1982年 第11回サロン文化協会展 大金賞（サンパウロ）
- 1984年 10人の日系美術展 アルテ・ノッサ画廊（ロンドリーナ）
- 1985年 個展 ギャラリーヴィヴァン（東京）
- 1987年 パウリスタ新聞40年展（サンパウロ）
- 1988年 日本移民80年祭 開拓展（サンパウロ）
- 1991年 クラウチオ・マクソウジ、豊田豊と3人展（神戸、東京）
- 1993年 個展 始弘画廊（東京）



廣田建一
KEN'ICHI HIROTA

- 1922年 新設機内運送部設計士館に定まる
- 1924年 第1回全日本学生演劇コンクール賞（東京）
- 1927年 第1回新劇作家協会賞（東京）
- 1933年 社団法人 2人組（東京）
- 1934年 東京山手区共済会卒
- 1936-38年 新世紀美術協会（東京）
27年、北村寿一、谷本義孝、48年、谷本義孝
- 1942年 演劇 北見演劇（東京）
演劇 中央演劇（東京）
- 1944年 演劇 中央演劇（東京）
- 1946年 演劇 小林アナー（新劇）
- 1948年 大東亜放送協会放送局にオブジェ（3.30×3.30×0.30m）を制作（東京）



作品 95-01
OBRA 95-01 294×45
70×294cm

若林 和夫

KAZUO WAKABAYASHI

1931年 神戸に生まれる

1961年 渡伯 サンパウロに住む

現在ブラジル国籍に帰化

個展

神戸、東京、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、ブラジリア、サルバドール、ワシントン、ニューヨーク等にて34回サロン・集団展第二紀会展、サンパウロ近代美術展、ブラジル近代美術展、サンパウロビエンナーレ展、ロックフェラーコレクションによる今日のブラジル絵画展、3つの形向に依るブラジル現代美術展、今日のブラジルパノラマ展、ジャパンアートフェスティバル、現代のラテンアメリカ美術展、伝統と破壊展、ストックホルム美術市展、ブラジルの抽象大家展、現在のブラジル絵画展、パリ国際現代美術展、日本の遺産展、リオーパリ20人のラテンアメリカ作家展、6つの時代から成るブラジル近代美術、5人のラテンアメリカ作家展、サンパウロビエンナーレブラジル展、他に日本、アメリカ、ヨーロッパに紹介される。

受賞

兵庫県展特選、サンパウロ近代美術展大金賞、ブラジル近代美術展銀賞・無監査、サロン聖美大金賞、4月のサロン（第1回青年美術展）絵画第1等賞、サンパウロビエンナーレ展、外務省買い上げ賞

作品収蔵

サンパウロ近代美術館、リオ・デ・ジャネイロ近代美術館、サンパウロ現代美術館、兵庫近代美術館、ラテンアメリカ現代美術館、サンチャゴ近代美術館、バイア美術館、ベロオリゾンテ美術館、マンシェッテ美術館、サンパウロ州立ピナコテッカ、他



若林和夫
KAZUO WAKABAYASHI

1937年 神戸に生まれる
1961年 渡米 サンパウロに赴く
現在 ブラジルの国境に居住

経歴

横浜、東京、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、ブタゴリア、サルバドール、シントラ、ニューヨーク等にて計画

サロン・デュ・シカゴ

第二次世界戦、サンパウロ近代美術館、ブラジルの近代美術館、サンパウロビコール館、ロッセフェチーコレクションによる今日のブラジルの絵画展、3つに渡るブラジルの現代美術展、今日のブラジルのバウハウス展、ジョージン・アードロ・サイバル、現代のラテンアメリカ美術展、仏教と建築展、ストックホルム展、ブラジルの抽象画家展、現代のブラジルの絵画展、パリ国際現代美術展、の審査員、ヨーロッパ10人のラテンアメリカ作家展、6つの時代から成る7



石川 マリオ

MARIO NOBORU ISHIKAWA

1944年 サンパウロ州プレシデンテプルデンテに生まれる

1968年 サンパウロ・アルマンドアルバレスペンテアード美術大学卒業

1967年 6人展 サンパウロ光と音美術館

サンパウロ国際ビエンナーレ

1974年 展望74年展 サンパウロ近代美術館

サイン・メッセージ・ミッション展 フルックサス画廊（ドイツ）

1975年 国際郵便アート展 アルテヌエボ画廊（ブエノスアイレス）

1976年 小品展 コンタクト画廊（ベルギー）

1977年「見える詩」展 サンパウロ近代美術館

個展 サンパウロ州立絵画館

18人のブラジル画家展 スペース・アルテナチーボ モンテカチーニ（イタリア）

18人のブラシル画家展 ビックハードボチネイリ画廊 カッセル（ドイツ）

1979年 「具象回帰」展 ラザールセガール美術館（サンパウロ）

現代ブラジル ペーパーウオーク展 ノベ画廊（ニューヨーク）

1984年 個展「政治発言と記録」サンパウロ市立文化センター

1985年 新旧作家展 サンパウロ美術大学

1986年 世紀展 サンパウロ州立絵画館

日系移民の歴史展 サンパウロ美術館



石川 マリオ
MARIO NOBORU ISHIKAWA

- 1941年 神戸市立市立アソシエーションに生まれる
- 1964年 神戸市立アソシエーションのアソシエーションアート美術大学卒業
- 1967年 写真展 神戸市立市立芸術館
- 神戸市立国際七五三ヤード
- 1971年 新築の年展 神戸市立近代美術館
- サントリーミュージック・コレクション展 アソシエーション展 (ドイツ)
- 1973年 国際美術展アート展 アソシエーション展 (アメリカ・ニューヨーク)
- 1974年 写真展 国際美術展 (ベトナム)
- 1977年 「見える話」展 神戸市立近代美術館
- 写真 神戸市立近代美術館
- 写真のアソシエーション展 神戸市立近代美術館 (ドイツ)
- 写真のアソシエーション展 神戸市立近代美術館 (ドイツ)



大岩オスカル幸男
OSCAR SATIO OIWA

- 1965年 ブラジル、サンパウロに生まれる
1989年 サンパウロ大学建築学部卒業
1993年 有限会社オスカルカンパニー設立（東京）
1995年 絵本『はじめてアート』スカイドア出版

個展

- 1985年 マクナイマギャラリー（リオ・デ・ジャネイロ）
1986年 マダムサタンエキジビションスペース（サンパウロ）
1987年 ギャラリー手（東京）
カザ・ド・ブラジル（マドリード）
1988年 ベラ・ノゲスギャラリー（サンパウロ）
1990年 クラメルギャラリー（サンパウロ）
1992年 ギャラリー西麻布アサクロス（東京）

1993年 横浜ガレリア ベリーニの丘（横浜）
スカイドア・アートプレイス青山（東京）
1994年 Cyan（東京）
1995年 なすび画廊（東京）
スカイドア・アートプレイス青山（東京）
神奈川県美術館・アートギャラリー（横浜）

グループ展・他

1984年 『シャンドンアートコンクール』 買い上げ賞、パッソダスアルテス（サンパウロ）

1986年 『コネクションウルバナ』 セルジョミリエギャラリー（リオ・デ・ジャネイロ）

1989年 『ダルジェ立体アートコンクール』 1等賞、アルテファクトスペース（サンパウロ）

1990年 『第8回サンパウロ現代アート展』 買い上げ賞（サンパウロ）

1991年 『第21回サンパウロ国際ビエンナーレ』（サンパウロ）

1993年 『都市と自然のはざままで・ブラジルアートの今日』 フジタ・ヴァンテミュージアム（東京）

1994年 『NICAF' 94』 アートフロントギャラリー・スタンド（横浜）

『ファーレ立川プロジェクト』（東京）

『神奈川アートアニュアル' 94』 神奈川県民ホールギャラリー（横浜）

1995年 『VOCA' 95』 VOCA 奨励賞、上野の森美術館（東京）

『リトルアペルト』 第46回ヴェニスビエンナーレ・パラレル展（ヴェニス）

岡本 アヤオ
AYA O OKAMOTO

- 1953年 パラナ州に生まれる
サンパウロ・アルマンドアルバレスペンテアード美術大学卒業
- 1982年 ルベックメールアート記録展（ドイツ）
- 1984年 「伝統破棄」展 サンパウロビエンナーレ
- 1985年 第1回「見る詩」実験美術展（メキシコ）
第3回サロンパウリスタ現代美術展（サンパウロ）
個展 マクナイマ フナルテ画廊（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1986年 個展 インスタレーション（クリチーバ）
第4回サロンパウリスタ現代美術展（サンパウロ）
第15回サロン文協展（サンパウロ）
カサドブラジル画廊（マドリッド）
日系移民の歴史展 サンパウロ美術館
- 1987年 個展 素描展 イタウ画廊 リベロンプレット（サンパウロ）
- 1988年 日系80'展 クリチーバ近代美術館
「緊急」展 セスキパウリスタ画廊（サンパウロ）
絵画個展 パウロプラド画廊（サンパウロ）
絵画個展 アルチフィナル画廊（レシーフェ）
個展 サダラ画廊（サンパウロ）

日本移民の80年記念展 セスキパウリスタ画廊（サンパウロ）

1989年 第10回サンパウロビエンナーレ エレクトログラフィック
三世代展 カンピーナス現代美術館

1990年 第6回日伯美術展 モア画廊（サンパウロ）

1992年 絵画個展 モニカ フィゲレイラ美術画廊（サンパウロ）
第7回日伯美術展 モア画廊（サンパウロ）

1993年 ブラジル美術館 ファアペ美術大学（サンパウロ）

1994年 「日系画家の見たサンパウロ」展（サンパウロ州立絵画館
ギャラリーカサデベロベロ展（ポルトガル）

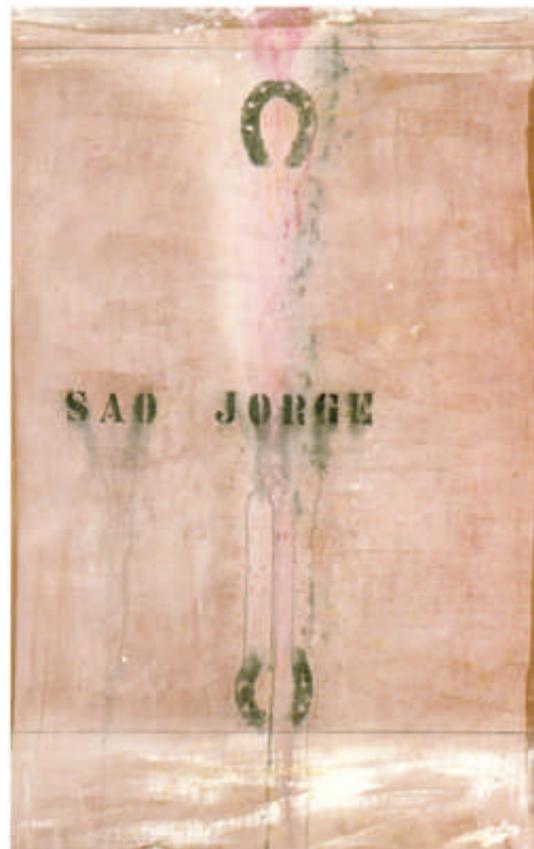
絵画個展 モニカ フィゲレイラ美術画廊（サンパウロ）

1995年 ホフェル画廊 シュトゥットガルト（ドイツ）



岡本アヤオ
AYAO OKAMOTO

- 1953年 パリナポリに生まれる
- サンパウロ・アルサント・アム・レ・エ・パン
- 1962年 ルベック・メーネーアート・ビエンナーレ (ドイツ)
- 1964年 「絵画展覧会」 サンパウロ・ビエンナーレ
- 1965年 第1回「見立展」 聖保羅美術館 (メキシコ)
- 第2回サンパウロ・リス・ド・現代美術展 (ブラジル)
- 個展 マナティマ アカデミア (ブラジル)
- 1966年 個展 インスタレーション (アメリカ)
- 第4回サンパウロ・リス・ド・現代美術展 (ブラジル)
- 第11回サンパウロ・文芸展 (サンパウロ)
- オサダ・ア・カ・ド・現代 (マナティマ)
- 日本移民の歴史展 サンパウロ美術館
- 1967年 個展 美術館 イタウ美術館 (ブラジル)



沖中 ロベルト

ROBERTO KUNIHICO OKINAKA

1956年 サンパウロに生まれる

サンパウロ美術大学室内装飾科卒業

1987年 日本ディスプレイデザイナー協会展（大阪）

奈良県より奨学金を給付され、ノムラ・ディスプレイ（大阪）で学ぶ

1990年 SPD 明治（東京・銀座）デザインセンターに制作のため招待される（1年半日本滞在）

1991年 第20回サロン文協展（サンパウロ）

1992年 第21回サロン文協展（銅賞）

バルエリ文化センター展（サンパウロ）

1993年 第22回サロン文協展（アクリレックス賞）

陶器画廊展（サンパウロ）

スペース アルキペラゴ展（サンパウロ）

1994年 第26回チャペル現代アート展

第23回サロン文協展（大金賞、日本旅行賞）

パネル・アバカ展 サンパウロ現代美術館

新進画家展 州立サンパウロ絵画美術館

個展 州立サンパウロ絵画美術館

1995年 プロモアルテ画廊（東京）

第27回チャペル現代アート展

陶器画廊展（サンパウロ）



沖中 ロベルト

ROBERTO KUNIHICO OKINAKA

- 1956年 サンパウロに生まれる
- サンパウロ美術大学室内装飾科卒業
- 1987年 日本デザインフェスティバル参加賞（大阪）
- 1987年 奈良県より奨学金を給付され、イムナイズ（スプルー）（大阪）
- 1988年 SPSP映画（奈良・福岡）デザインモニターに制作のための招待（日本滞在）
- 1991年 第20回サロン展覧会（サンパウロ）
- 1992年 第21回サロン展覧会（東京）
- パルネリス文化センター展（サンパウロ）
- 1993年 第22回サロン展覧会（アクリレックス展）
- 陶器展覧会（サンパウロ）
- スベニス・アルカヘリス展（サンパウロ）



奥村 リーディア
LYDIA OKUMURA

サンパウロに生まれる

アルマンドアルヴァレスペンチアード美術大学卒業

1973年 国際グラフィックアートビエンナーレ ノルウェー、ユーゴスラビア、ポーランド、プエルトリコ

1976年 70年代作家展 ブエノスアイレス近代美術館

1977年 サンパウロビエンナーレ（国際賞）

1978年 国際グラフィックアートビエンナーレ ノルウェー、ユーゴスラビア、ポーランド、プエルトリコ

ニューヨーク クリアティブアーティスト奨学賞

1979年 国際交流基金 日本奨学金留学賞（1年間）

個展 銀座絵画館（東京）

ダエグ現代美術祭（韓国）

新規購入作品展 メトロポリタン美術館

1981年 メデリン国際展（コロンビア）

1982年 コンデッソロウエール画廊個展（ニューヨーク）

1983年 サンパウロビエンナーレ（サンパウロ）

1984年 コンデッソロウエール画廊個展（ニューヨーク）

サンパウロ画廊個展（サンパウロ）

サンパウロ近代美術館個展（サンパウロ）

1985年 今日のブラジル芸術展 原美術館（東京）

1987年 現代スペイン系美術館（ニューヨーク）

1990年 ブリッジポート ディスカバー美術館展（ニューヨーク）

1991年 ブリッジポート ディスカバー美術館展（ニューヨーク）

ラテンアルチカ90展 ビエンナーレモントリオール（カナダ）

1993年 ジェアークロードベルゲロン画廊個展（オタワ）

日葡友好450年記念“航海者の海展” ブラジル美術館（サンパウロ）

収蔵

メトロポリタン美術館、カラカス美術館、サンパウロ大学現代美術館、サンパウロ・ブラジル美術館、イタマラチィブラジル外務省、サンパウロ近代美術館、原美術館、他



奥村 リージャ
LYDIA OKUMURA

- サンパウロに生まれる。
 アカデミア・アルファレス・ベシナ・アート・アカデミア卒業
 1972年 国際グラフィックアート・ビエンナーレ、メルブーン、ユーゴスタ
 ボーランド、アメリカ
 1974年 79年現代美術展、フェリスカ・フェリスカ現代美術展
 1977年 サンパウロ・ビエンナーレ（国際賞）
 1978年 国際グラフィックアート・ビエンナーレ、メルブーン、ユーゴスタ
 ボーランド、アメリカ
 ニューヨーク、グラフィック・アート・ビエンナーレ
 1979年 国際文化基金（日本美術家協会）（1年間）
 執筆、美術評論家（東京）
 アニメーション監督（東京）
 新聞挿入作品展、メトロポリタン美術館



金子 太郎
TARO KANEKO

- 1953年 ブラジルガーリア市に生まれる
サンパウロ大学建築科卒業
- 1979年 日伯美術展（東京、熱海、京都、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ）
- 1980年 第3回サロンナショナル（国展）（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1981年 個展 ラテンアメリカ美術館（ワシントン）
第4回サロンナショナル（国展）（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1982年 個展 サンパウロ美術館 アシスシャトーブリアン
サントス青年美術展（買い上げ賞）
- 1983年 第4回目伯美術展（買い上げ賞）
サロン文協美術展（金賞）
- 1984年 第4回メキシコ イベロアメリカンビエンナーレ展
サロン文協美術展（金賞）
- 1985年 サロンパウリスタ現代美術展
- 1986年 日系画家展 サンパウロ美術館
個展 ジョゼードウアルテ リカルドカマルゴ画廊（サンパウロ）
個展 国立文化省画廊（ブラジリア）
- 1987年 個展 ベロオリゾンテ フェルナンドパース画廊
ダン画廊展（サンパウロ）
MOA 画廊選抜展（サンパウロ）

1988年 ブラジル画家展 ペキン国立画廊（中華人民共和国）

1990年 ロスアンゼルス20世紀美術館

個展 新潟ダイワ画廊 長岡市立美術センター 亀田文化センター

1991年 個展 ダン画廊（サンパウロ）

ファーゲンピーターソン美術画廊 マイアミアートスタジオ シカゴエキスポ展

1992年 マイアミコンベンションセンター、ジュネーブなどの合同展

個展 見附市立図書館 長岡市立美術センター 新潟市立美術館

1993年 マイアミ ビスカイア美術館展

サンパウロブラジル美術館展

1994年 新潟第一美術展

8人のブラジル画家展 サーラガルシア画廊（ブエノスアイレス）



金子太郎
TARO KANEKO

- 1927年 プラジメーターで宇宙に飛ぶ
マツバウロ大学建築科卒業
- 1929年 日伯美術展（東京、熱地、京都、マツバウロ、リオーナジヤネイロ）
- 1930年 第1回マロンナショナル（国展）（リオーナジヤネイロ）
- 1931年 国展 マロンアメリカ美術展（ワシントン）
第1回マロンナショナル（国展）（リオーナジヤネイロ）
- 1932年 国展 マツバウロ美術展 アムステルダム・ブリアン
セントス改定美術展（日仏上げ賞）
- 1933年 第4回日伯美術展（日仏上げ賞）
マロン美術展（国展）
- 1934年 第1回メキシコ イバロアメリカセンセシオナール展
マロン美術展（国展）
- 1935年 マロンパオリスチカ現代美術展



工藤 ジェームス
JAMES KUDO

- 1967年 サンパウロ州ペレイラバレットに生まれる
- 1982年 マリリア日伯美術展
- 1983年 マリリア市美術展
- 1987年 サンパウロ美術館展
個展 サンパウロ美術大学
個展 サンパウロ市立文化センター
第2回アバレー近代美術展 買い上げ賞
- 1988年 サンパウロ サンタマルセリーナ大学美術展
第17回サロン文協美術展 アクリレックス賞
- 1990年 第19回サロン文協美術展 銀賞
- 1991年 第20回サロン文協美術展 金賞、ニューヨーク旅行賞
サンパウロMOA画廊グループ展
バスフ・カーザ・デ・コール画廊展
- 1992年 個展 ニューヨーク アメラシア画廊
- 1993年 第22回サロン文協美術展 大金賞、日本旅行賞
個展 ニューヨーク イカロルーム
個展 サンパウロ MOA（岡田茂吉財団）画廊
サンパウロ サントアンドレー市美術展
- 1994年 個展 カンピーナス市立現代美術館

個展 サンパウロ州立絵画美術館

個展 東京 プロムアート ラテンアメリカ画廊

カルチャー・ファブリック・ロト展 ニューレンベルグ ドイツ



工藤 ジェームス
JAMES KUDO

- 1987年 サンパウロ博物館レイラ・レイトに参画
- 1987年 マリア・アウグスタ美術館
- 1993年 マリア・アウグスタ美術館
- 1997年 サンパウロ美術館
副館長「サンパウロの美術大学」
館長「サンパウロの近代文化センター」
第13回ア・バレー近代美術館 館長代行
- 1999年 サンパウロ サンチスピリット大学美術館
第17回サロン文芸美術館 アナトリアス館
- 2006年 第18回サロン文芸美術館 副館長
- 2013年 第20回サロン文芸美術館 会館、ニューヨーク旅行
サンパウロMMA美術グループ員
バスター・オーサー・コレクション副館長



島袋 アデマール

ADEMAR KAZUMI SHIMABUKURO

1963年 サンパウロ州カンピーナスに生まれる

1991年 カンピーナスカトリック大学建築科卒業

1992年 14回サロンタウバテ美術展 サンパウロ

1993年 サロンサンローレンソ美術展 サンパウロ

サロンサンジョアネンセ現代美術展 サンパウロ

19回リメイラビエンナーレ展 サンパウロ（買い上げ賞）

グンター賞絵画展 サンパウロ大学現代美術館（佳作賞）

1994年 個展 サンパウロ セスキ画廊

パネルABCA サンパウロ大学現代美術館

1995年 サンパウロサントアンドレー鑑賞の家の常連となる

第2回グンター賞絵画展 サンパウロ大学現代美術館（佳作賞）

ポルトガル航海者の家、ジェロニモ修道院

23回サントアンドレー現代美術展（サンパウロ）

新世代展 サンパウロ州立絵画館

陶器アート画廊（サンパウロ）

沖縄那覇美術館

作品収蔵

沖縄那覇美術館、サンパウロ大学現代美術館、サントス商業連盟会館



島袋 アデマール

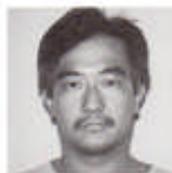
ADEMAR KAZUMI SHIMABUKURO

- 2007年 神戸大学経済コンソーシアムにて展覧
- 2011年 バンブー・アート・トリップ 大学建築科学展
- 2012年 11回神戸大学アート展覧会 神戸大学校
- 2013年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2014年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2015年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2016年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2017年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2018年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2019年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2020年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2021年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校
- 2022年 神戸大学アート・トリップ 展覧会 神戸大学校



高瀬 ヘルマン
HERMAN TACASEY

- 1962年 サンパウロに生まれる
FAAP 美術学校卒業（サンパウロ）
深沢一郎銅版画教室、木版画IDA 京都にて学ぶ
- 1983年 デッサンと版画展（ブラジル、日本）
- 1986年 SESC 版画展（サンパウロ）
- 1987年 FAAP 美術学校教授（サンパウロ）
- 1990年 オズワルド・デ・アンドラーデ教室で版画を教える
サンパウロ文化センター版画展
- 1992年 サンパウロ現代美術館版画展
- 1994年 サンパウロ近代美術館版画展
第22回サンパウロ国際美術ビエンナーレ展



高瀬 ヘルマン
HERMAN TACASEY

- 1982年 サンパウロに生まれる
FAP/美術学校卒業 (サンパウロ)
最初の講師美術教育、本州岡山県にて学ぶ
- 1983年 デュッセルドルフ展 (アムステルダム、日本)
- 1986年 SES展 (サンパウロ)
- 1987年 FAP美術学校教授 (サンパウロ)
- 1990年 オズワルド・ド・アウターラズ教授で版画を教える
サンパウロ文化センター展
- 1992年 サンパウロ現代美術館展
- 1994年 サンパウロ現代美術館展
第2回サンパウロ国際美術ビエンナーレ展



中久保 益男

MASUO NAKAKUBO

1938年 サンパウロに生まれる

1966 - 69年 多くのグループ展や公募展に素描作品を発表

1969年 シルクスクリーン作品を初めて制作

1970年 個展（シルクスクリーン作品展）アステレイア画廊（サンパウロ）

85年まで合わせて20回の個展をブラジル各地で開催

またグループ展や公募展、サロン、ビエンナーレ他

主に海外の展覧会にも多くの作品を発表

1984年 この年より石綿工場の技術協力を得てシルクスクリーンの新プロセスを研究

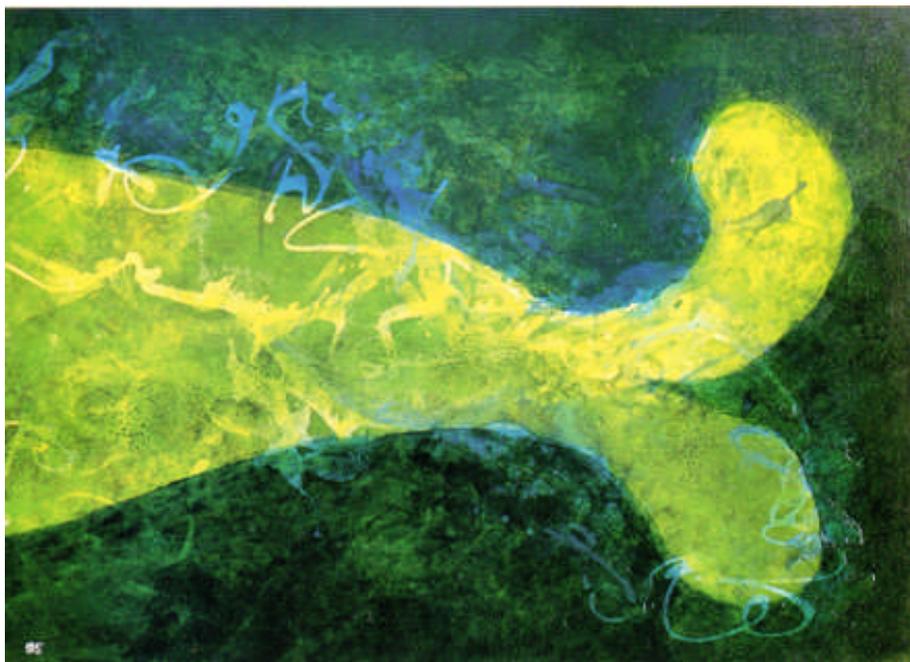
1985年 リトグラフをサンパウロのアトリエ・アルマヴェーラで制作し始める

1986年 手漉きの紙やキャンバスにアクリル絵の具を用いて制作



中久保益男
MASUO NAKAKUBO

- 1928年 サンパウロに生まれる
- 1967-69年 多くのグループ展や公募展に美術作品を発表
- 1969年 シルベスター・スクリン作品を初めて制作
- 1973年 映画『シネマスクリーン』(作品名) アスヴェレイア美術館(サンパウロ)
69年まで合わせて2回展覧会を開催
またグループ展や公募展、サロン、ビエンナーレ等
土曜日の展覧会にも多くの作品を発表
- 1984年 この年より右腕と左手の協力を得てシルベスター・スクリンの数作品を
研究
- 1985年 シルベスター・スクリンの『アトリス・アルマヴェルテ』を制作し始める
- 1986年 手書きの紙やキャンバスにアトリス・アルマヴェルテの目を写して制作



福島 隆

TAKASHI FUKUSHIMA

- 1950年 サンパウロに生まれる
サンパウロ大学建築科卒業
- 1969年 第13回聖美会展 ブラジル日本文化協会
- 1970年 第4回青年美術展 サンパウロ大学現代美術館
- 1971年 第1回個展 オップス画廊（サンパウロ）
- 1972年 1972年ブラジル造形美術賞 サンパウロビエンナーレ基金
- 1973年 第12回サンパウロ国際ビエンナーレ
- 1974年 第4回サロンナショナル（国展） パンプローナ美術館 最優秀絵画賞
- 1975年 第13回サンパウロ国際ビエンナーレ ブラジル室買い上げ賞
- 1976年 今の芸術展 リオデジャネイロ近代美術館
- 1977年 個展 リーブレ画廊 モントリオール アンフォルムオールアート画廊（トロント）
- 1978年 第1回サロンナショナル リオデジャネイロ 海外旅行賞
- 1979年 個展（ワンダーランドスケープ） リーブレ画廊（モントリオール）
- 1980年 第2回日伯美術展 サンパウロ近代美術館 買い上げ賞
- 1981年 現代のラテンアメリカと日本展招待 大阪市立美術館
- 1982年 個展（自然） ボンフィグリオール画廊（サンパウロ）
- 1983年 個展 パウロプラド画廊（サンパウロ）
- 1984年 壁展 サンパウロ美術館



福島 隆
TAKASHI FUKUSHIMA

- 1989年 ヤシバ財団奨励賞
ヤシバ財団大学建築科卒業
- 1989年 第11回野矢会賞 アラジン日本文化協会
- 1979年 第1回青年美術展 ヤシバ財団大学現代美術展
- 1973年 第1回福岡 オープン画廊 (ヤシバ財団)
- 1972年 1972年アラジン画廊展覧会 ヤシバ財団のビエンナーレ展覧会
- 1973年 第12回ヤシバ財団の展覧会セレクト
- 1974年 第1回ヤシバ財団の展覧会 (1974) 一橋プロダクト美術館 松尾有樹賞
- 1975年 第13回ヤシバ財団の展覧会セレクト アラジン展覧会 (1975)
- 1976年 今の芸術展 コナクシエの近代美術展
- 1977年 展覧会 アラジン画廊 センタリョール アラジン・ムネオール・アール (1977)
- 1978年 第14回ヤシバ財団の展覧会 コナクシエの展覧会 海外展覧会



間部 ユーゴ
YUGO MABE

- 1955年 サンパウロ州リンスに生まれる
- 1972年 サロン文協展（銅賞）
- 1975年 サロンパウリスタ美術展
サロン文協展（小銀賞）
- 1978年 日伯美術展に連続出品 現在に至る
- 1979年 ブラジル日本移民70周年記念展
- 1980年 個展 ドクメンタ画廊（サンパウロ）
- 1982年 個展 レアリダーデ画廊（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1983年 個展 ドクメンタ画廊（サンパウロ）
個展リージアフォルテ画廊（バイーア）
ブラジル日本移民75周年記念展
- 1984年 個展 アントーニオバンディラ画廊（リオ・デ・ジャネイロ）
- 1985年 個展 カンピーナス ヨーロッパ銀行
- 7人展 ポルタル画廊（サンパウロ）
オスカルセラフィコ画廊（ブラジリア）
- 1987年 フェルナンドパース画廊展（バイーア）
個展 ユタカサネマツ画廊（サンパウロ）
サロンパウリスタ美術展（小銀賞）



間部 ユーゴ
YUGO MABE

- 1955年 サロウワロ物トリスに生まれる
- 1972年 サロン展覧会 (開催)
- 1973年 サロンパワリスチス展覧会
- 1974年 サロン展覧会 (小冊子)
- 1974年 日仏美術展に選出出品、現在に至る
- 1979年 アラシキ日本銀行20周年記念展
- 1980年 展覧 トクメンタ展覧 (サロウワロ)
- 1982年 展覧 シアリデー展覧会 (リオデジャネイロ)
- 1983年 展覧 トクメンタ展覧 (サロウワロ)
- 展覧 ユーゴ・マベ展覧 (ハイチ)
- 展覧 アラシキ日本銀行20周年記念展
- 1984年 展覧 アンターニオ・パンデイタ展覧 (リオデジャネイロ)
- 1985年 展覧 エンビース、ヨーロッパ銀行



曾我部 ミルトン
MILTON TERUMITSU SOGABE

1953年 サンパウロに生まれる

1978年 サンパウロ美術大学油絵科卒業

現在、サンパウロ州立大学、及びアルバレスペンチアード美術大学で教鞭をとる傍ら、サンパウロカトリック大学の情報科学科修士課程に在籍中。

さまざまな映像により芸術と科学との関係を研究し、素描、版画、絵画とともに87年より新しいメディアであるエレクトロニクスにも興味をもつ。例えばゼロックス、ファックス、ビデオテスト、ビデオ、スローモーションテレビ、コンピューターグラフィックなどあらゆる新しいメディアの実験をする。

各地のテレコミュニケーション関係のイベントには常に参加、94年のサンパウロ国際ビエンナーレに初参加して注目された。



曾我部 ミルトン
MILTON TERUMITSU SOGABE

1967年、マサチューセッツ生まれ
1990年、オハイオ州の美術大学美術科
修士。オハイオ州州立大学、及びア
ーソン、ペンシルバニア州立大学の
さまざまな美術により芸術と科学と
のより新しいメディアであるスト
ラス、フロックス、ヒポキラスト、
一ターボグラフィックなどあらゆる最新
各種のデジタルコミュニケーション関係の
デジタルアートに創発しては日本



2010年制作



チェン コン ファン
CHEN KONG FANG

- 1931年 トンチュン（支那）に生まれる
- 1957年 リオ・デ・ジャネイロ サロンナショナル美術展（銅賞）
- 1960年 サロンパウリスタ美術展（買い上げ賞）
- 1962年 サロンパウリスタ美術展（銀賞）
- 1967年 サロンパウリスタ美術展（大銀賞）
- 1968年 聖美会展（大銀賞）
 ビラシカーバ現代美術展（大銀賞）
- 1969年 聖美会展（小金賞）
 第2回サンパウロ風景画展
- 1977年 東京、熱海、京都、シカゴ、ニューヨーク等で展覧会
- 1978年 第3回ペナポリス美術展
 個展 コスモヴェーリョ画廊（サンパウロ）
- 1979年 米伯文化センター展（サントス）

 ブラジル現代美術の展望展 サンパウロ近代美術館
 映画“画家 方向光の道程”制作
 第4回日伯美術展（買い上げ賞）
- 1981年 変貌する画家たち展 サンパウロ近代美術館
 個展 ダン画廊（サンパウロ）



チェン コン ファン
CHEN KONG FANG

- 1951年 トンチェン（現職）に生まれる
- 1957年 ミオ・デ・ジャネイロ、マロン・ジョナル美術館（観覧）
- 1960年 ヤロン・ワリスタ美術館（買い上げ費）
- 1962年 ヤロン・ワリスタ美術館（観覧）
- 1967年 ヤロン・ワリスタ美術館（大観覧）
- 1968年 物産会館（大観覧）
セランカー・現代美術館（大観覧）
- 1969年 物産会館（小観覧）
第2回カンパウコ展覧会開
- 1977年 東京、熱海、京都、ソビエト、ニューヨーク等で展覧会
- 1978年 第3回カンパウコ展覧会
- 1980年 展覧会「コネクティクット」開催（サンパウロ）
- 1979年 東京文化センター展（サンクス）



謝 辞

はじめに、1995年8月の第1回開催を皮切りとして、日本各地で「ブラジル現代日系作家展」が実施開催されるにあたり、日伯両国の関係各位のご理解とご協力に深甚なる謝意を表するものであります。

日本各地でこうした展覧会を開催し、作品を通して日伯両国の文化交流を深めたいという願いは、ブラジル在住の日系作家およびブラジル日本文化協会美術委員会にとって、長年にわたる熱望でありました。今回の企画立案のきっかけとなったのは、1993年2月、徳島の阿波之里アートフォーラムを通じての出会いでした。日伯修好通商条約締結100周年にあたる1995年に向けて、日本とブラジルでそれぞれに展覧会実現の可能性を探るうちに、本展の企画は、ブラジル日本文化協会主催によるブラジル側の100周年記念事業として取り上げられることとなり、日本各地での開催を実現するべく、(株)スペクトラム・コミュニケーションズのご協力を得て、東京銀座に日本事務局が開設されることとなったのであります。

ブラジルでは、ブラジル日本文化協会美術委員会によって作家の選考が行われ、本展の趣旨を汲んでの慎重な審査の結果、戦前に渡伯した方々からブラジル生まれの若手まで、年齢も過ごしてきた生活環境も異なる36名の日系作家の出展が決定するとともに、民族の壁を越えて活況を呈しているブラジル美術界の一端を日本の皆様知って頂きたいとの願いから、日系以外のブラジル人受賞作家5名の作品の出展も決定致しました。そしてこれらの出展作家全員が、日本に於けるこの展覧会に向けての熱意をもって、その作品をボランティア出品して下さることとなったのです。

一方日本事務局では、ブラジルより(株)ブラジル日本都道府県人会連合会のご助力も頂いて、ブラジルと姉妹提携を結ぶ各都道府県、都市をはじめとする日本全国の自治体、民間団体、関連企業等に共催および協賛、後援のお願いを開始しました。その間、急激な変化を遂げる国際情勢、厳しい経済状況、日本国内における衝撃的な事件の続発など、難題も多く、また高度情報化時代といえども地球の真裏にあたる国ど

うしのこと、日本の予算期の問題や、懸案のやりとりでの両国のテンポの違いなど、実施へ向けての道は険しいものに思われました。しかしながら、日伯修好100周年新潟県記念事業実行委員会を結成して共催を快諾して下さった新潟県をはじめ、岐阜県では岐阜新聞・岐阜放送社がキーステーションとなって自治体や民間企業に呼びかけて開催にこぎつけて下さり、また本展の発端の地、徳島では徳島県女流美術家協会のご協力を得るなど、日本各地の自治体、民間団体、さらには個人の方々に至るまで、数多くの日本の皆様が本展の趣旨をご理解下さるとともに、開催実現へ向けて手を差し伸べて下さったのであります。そして1995年6月現在においてもなお、本展の開催を実現させるべく、日本各地で多くの方々がご尽力下さっていることは、誠に感謝にたえません。

こうして「ブラジル現代日系作家展」は、1995年8月の新潟での第1回開催から1996年6月の東京での最終開催に至るまで、約1年に渡り日本各地で皆様にご観覧頂けることとなりました。

現在日本においては各地で多数の日系ブラジル人が就労しており、またサッカーや音楽などを通しての日伯両国の交流も盛んに行われております。100年を刻んだ日本とブラジルの長い友好の歴史は、いま21世紀へ向けて新しいページを開こうとしているように思われます。修好100周年を記念し、日伯両国の多くの方々のご厚意に支えられて実現をみたこの展覧会が、開催各地で成功裡に終了することを祈念するとともに、ブラジルの大地に生き、力強い活躍を続ける日系美術家たちの作品が、日本の皆様の心に響いて、日伯両国の相互理解と文化交流の一助となることを強く願うものであります。

1995年6月

サンパウロ日本文化協会美術委員会
ブラジル現代日系作家展日本事務局

委員長 豊田 豊
代 表 石田 浄

日本ブラジル修好100周年記念
ブラジル現代日系作家展
ブラジルの大地に生きる日系美術家たち

主催／ブラジル日本文化協会

協賛／日本ブラジル修好100周年記念事業サンパウロ日系協力委員会

日本ブラジル修好100周年記念事業組織委員会

ヴァリグ・ブラジル航空

南米銀行

後援／在日ブラジル大使館

サンパウロ州立銀行

図録

編集・発行／ブラジル現代日系作家展日本事務局C

〒104 東京都中央区銀座6-3-17 悠玄ビル

TEL (03) 3572-7017 FAX (03) 3572-1767

制作／ニューカラー写真印刷株式会社 PRINTED IN JAPAN, 1995

会期・会場

1995年8月10日－8月20日 新潟県民会館

8月30日－9月10日 徳島郷土文化会館・阿波之里夢回廊

1996年1月5日－1月15日 岐阜県立美術館

6月13日－6月30日 麻布美術工芸館（東京）